

# アートラボはしもと 事業評価書

平成31年1月

相模原市

評価シート  
(最終評価)

:: アートラボはしもと 評価シート ::

1 基本事項	
施設の名称	アートラボはしもと
施設の設置目的	<p>美術系大学等との連携によるワークショップ等やまちづくり活動を通じ、アートによる先進的・実験的な取り組みを行うとともに、将来の美術館運営に必要な知識・経験を蓄積することを目的とする。</p> <p>* 本市美術館基本構想を検討する過程において、将来、美術館が開館するまでの間に、その機能のうち、教育普及、まちづくりの事業の運営に必要な知識・経験を蓄積することを目的に、平成24年度に開館した。その後、平成28年度に策定された基本構想において、展示、収集保存等の機能を(仮称)美術館(相模原)が、教育普及、まちづくりの機能を(仮称)美術館(橋本)が担うこととなり、当館では後者の開館に向け、引き続き、アートによる先進的・実験的な取り組みを行っている。</p> <p>なお、現状では、展示、収集保存等の機能については、相模原市民ギャラリーが担っている。</p>
事業目標	<p>1. アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を、施設内にとどまらず市内の各地に展開する。</p> <p>2. 様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する。</p> <p>3. 地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する。</p>
施設概要	<p>相模原市が寄贈を受けた旧マンション販売センターの土地、建物をそのまま活用し、平成24年に開設した美術教育のための施設。</p> <p>軽量鉄骨造2階建 1階961.92㎡ 2階810.72㎡ 延1772.64㎡</p>
施設所管課の名称	相模原市 市民局 文化振興課 アートラボはしもと

2 管理実績						
項目(単位)	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数合計(人)	18,185	18,008	16,992	15,393	17,339	15,864

3 成果指標の達成度	
成果指標1	再整備後の施設において実施すべき事業の件数
指標の説明	<p>「将来の美術館運営に必要な知識・経験を蓄積する」という当館の設置目的に則り、様々な先進的・実験的な取り組みを通して、各年度に「再整備後の施設において実施すべき事業」として判断した事業件数を成果指標とする。</p> <p>各年度の「目標値」及び「実績値」は、累積として表記する。</p> <p>各年度の「累積目標値」の設定においては、前年度の「累積実績値」に新たに3件の事業を加える。</p>

項目	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
累積 目標値(件)	3	6	8	10	14	20
累積 実績値(件)	3	5	7	11	17	21
達成度(%)	100.0	83.3	87.5	110.0	121.4	105.0

成果指標2	当館事業に関わった美大生・作家等の人数
指標の説明	<p>将来の美術館運営に向け、若手アーティストへの支援、美大生への活動の場を提供を通して、アートに関わる人材を育成することは非常に重要であることから、当館の実施事業に関わった美大生・作家等の人数を成果指標とする。</p> <p>実績値の人数については延べ人数。ただし、「学生企画展」「SUPER OPEN STUDIO」「博物館学芸員実習」など長期に亘る事業でも、参加者の個人名が特定できるものにおいては、1事業につき1人としてカウント。</p>

項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
美大生	目標値 (人)	300	300	300	300	300	300
	実績値 (人)	368	273	395	431	455	354
	達成度 (%)	122.7	91.0	131.7	143.7	151.7	118.0
項目		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
作家等	目標値 (人)	100	100	100	100	100	100
	実績値 (人)	33	142	163	141	189	163
	達成度 (%)	33.0	142.0	163.0	141.0	189.0	163.0

4 評価(一次評価)		
指標名(単位)	評価	コメント
将来の再整備に向けた取組の達成度	S	<p>当館が活動拠点となり、「アートラボはしもとに関する基本協定」を結ぶ美術系4大学との連携によって事業を行ったことは、全国でも例が少なく、先進的であった。また、展覧会等を企画する学生を育成する長期ワークショップ「学生企画展」、地域の100人を越える作家の制作スタジオを一齐に公開する「SUPER OPEN STUDIO」、地域の絵画・造形教室におけるワークショップ活動を一堂に集めて紹介する「ワークショップ広場」などの先進的な取組みを行った。あわせて、地域の職業人を講師とするワークショップ「開講！ぼくらの未来授業」や、ホームタウンチーム、農業者との連携事業など、実験的な取組みを行った。</p> <p>これらの多様なワークショップ等の事業の中には、今後の実施に当たって、そのノウハウがそのまま活用できるものばかりでなく、実施内容や手法等の改善を要するもの、実施の是非の検討を要するものもある。それらの事業実施の成果として、「成果指標1 再整備後の施設において実施すべき事業の件数」のとおり、平成29年度までに目標を上回る21件の実績をあげ、新施設における事業運営に必要な知識、経験を蓄積することができた。</p>
事業目標1の達成度	A	<p>開館以来、主催・共催・協力等、様々な関わり方で、多様なワークショップ等を数多く実施してきた。</p> <p>それらの事業は、未就学児や小学生と保護者を対象とするものが中心であった。また、商店街関係者、地域住民や高齢者を対象としたワークショップや、大人の来場者が多い「SUPER OPEN STUDIO」などの事業を行った。</p> <p>事業実施の周知に当たっては、広報紙、市ホームページや当館フェイスブック、駅や市関係機関、近隣の小学校等におけるポスター掲示、チラシ配布等を行い、1年間平均で16,964人の来場者があった。</p> <p>アウトリーチによる事業については、「SUPER OPEN STUDIO」、児童クラブ等におけるワークショップ、商店街や小学校等との連携事業などを行った。一方で、学生企画展の関連企画、ホームタウンチーム等との連携など、アウトリーチ化し得ると思われる事業もあり、その検討も含め、拡充を図る必要がある。</p>
事業目標2の達成度	A	<p>基本協定を結ぶ美術系4大学と本市とで構成する「アートラボはしもと事業推進協議会」において、当館事業の方針、年間事業計画等を企画、立案するなど、当館事業を推進した。大学・大学生との連携においては、4大学の主催事業をはじめとして、「学生企画展」、児童クラブ等におけるワークショップ等の実施や、全市立小・中学校が参加する野外作品展である造形「さがみ風っ子展」等への学生の参加など、様々な事業を実施した。</p> <p>地域の各種団体との連携においては、商店街の活性化に係る事業、小学校への出張授業、自治会との協働によるイベントなどの事業を行った。</p> <p>小・中・高校との連携においては、造形「さがみ風っ子展」への参加のほか、小学校への出張授業、児童クラブ等におけるワークショップ、各種のライブパフォーマンスを当館で公開する「アートラボライブショー」への高校生の参加などの事業を行った。</p> <p>上記のほか、様々な職業の市民、JAXA、農業者、市関係機関など、異分野との連携により、多様な事業を行った。</p> <p>まちの活性化については、大学・大学生との連携による様々な事業や、「SUPER OPEN STUDIO」の実施、商店街等主催の各種イベントへの協力などにより、資することができた。一方で、ホームタウンチームとの連携、アートラボライブショーの実施など、さらなるまちの活性化につなげ得ると思われる事業もあり、その在り方を検討する必要がある。</p>
事業目標3の達成度	B	<p>地域の若手作家・アーティストの支援については、「SUPER OPEN STUDIO」「ワークショップ広場」「アートラボライブショー」などの事業を行ったが、該当事業数については十分でなかった。</p> <p>美大生への活動の場の提供については、「学生企画展」や「ワークショップ広場」の実施、造形「さがみ風っ子展」への参加をはじめ、小・中・高校、地域の商店街等の団体、市関係機関等との連携事業等において、多くの活動の場を提供した。</p> <p>それらの事業実施に伴い、「成果指標2 当館事業に関わった美大生・作家等の人数」においては、概ね目標を上回る実績をあげることができた。</p> <p>上記の事業を通して、アートに関わる人材の育成に寄与することができたが、ワークショップ広場、高齢者向け事業やアートラボライブショー等の実施においては、さらなる人材の育成につなげ得ると思われ、事業の在り方を検討する必要がある。</p>
5 施設所管課による総合評価		
コメント	<p>アートラボはしもとの実施した事業においては、3つの事業目標を概ね達成し、施設の設置目的である「先進的・実験的な取組みを通して、再整備後の施設運営に必要な知識・経験を蓄積すること」を達成した。</p> <p>同施設の再整備にあたっては、解決を要する課題はあるものの、基本的にはこれまでに実施してきた各種事業は継承するべきと考える。</p>	

6 評価(二次評価)

指標名(単位)	評価	コメント
将来の再整備に向けた取組の達成度	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次評価に賛同し、「S」評価とする。</li> <li>・施設の設置目的のとおり、実験的な事業を数多く実施し、再整備後の施設における事業運営のための知識と経験を蓄積したことを高く評価する。</li> <li>・再整備後の施設における事業実施にあたっては、スポンサーシップなど民間事業者との連携を含め必要な実施体制を確保し、運営体制を強化すべきである。</li> </ul>
事業目標1の達成度	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次評価に賛同し、「A」評価とする。</li> <li>・自由な発想による多様なワークショップを、子どものみならず、大人や高齢者など幅広い世代を対象として実施したことを評価する。</li> <li>・学生等の企画による事業実施にあたり、施設利用に係る制約を少なくするなど、柔軟な事業運営をしたことを評価する。</li> <li>・アウトリーチ事業や異分野連携については、事業実施に伴う調整力が必要である。学芸員による自前での実施にこだわらず、専門性をもつ外部の人に依頼する、市民と協働で行うなど、運営体制の強化を図るべきである。</li> <li>・事業に関する情報を発信する上で、SNSの活用、実施事業のアーカイブ化、アウトリーチ事業の拡充などが有効だが、人員の充実が必要である。</li> <li>・現在の実験的な事業に取り組む姿勢はぜひ継承すべきである。そのためには、市の文化政策としてきちんと位置付け、柔軟な運営を担保できる設置条例の設置、責任者を市職員ではなく外部に置くなどの方策が考えられる。また、検討したものの実施に至らなかった事業についても記録に残し、検討した経過そのものを取組として評価すべきである。</li> </ul>
事業目標2の達成度	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アートによるまちづくり活動の実績としては不十分であるため、「B」評価とする。まちづくりに寄与することは重要だが、小規模なアートラボはしもとの事業において、相模原市という政令市のまちづくりを目標とすることに無理がある。アートは答えのない自由なものであり、それによって様々な可能性が生まれているのだから、具体的なまちづくりの成果をアートラボ事業に求めるべきではないと考える。目標設定自体を見直すべきである。</li> <li>・基本協定を結んだ大学、様々な立場の市民、団体等と連携して数多くの事業を行ったことについては評価する。</li> <li>・現在、施設利用者や事業連携の相手は、ともに大学生が中心だが、卒業後に地域に留まって事業に関わるには限らない。対象を大学生に限定せず、より幅広い層の市民が事業運営に関わりを持ちやすいよう開かれた施設にすることも必要なのではないか。</li> </ul>
事業目標3の達成度	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アーティストや美大生が活動する居場所として定着しており、活動を通じて人が育っていることを踏まえ、「A」評価とする。</li> <li>・現在より一歩踏み込んだ支援を行う方策としては、アーティストや美大生が制作しやすい環境づくり、社会人となっても創作できる環境づくり、ドキュメント(活動記録)制作の支援、アワード(賞)の実施、個人では購入・所有困難な機材の貸出などが考えられるため、民間活力の導入を図るなどして、人材育成に必要な機能の確保に努められたい。</li> <li>・アーティストや美大生の支援にあたっては、ヒアリングによって今日的な課題を把握し、それに即した事業を実施するよう、支援のあり方を再検討すべきである。</li> </ul>

7 評価委員会による評価

評価実施日	平成31年1月17日
コメント	<p>アートラボはしもとの再整備後の施設における事業実施にあたり、以下の点に留意されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ラボ」(研究所)として、実験的な事業に取り組む姿勢はぜひ継承すべきである。</li> <li>・これまでの取組の中で成功した事例も失敗した事例もアーカイブ化して、広く情報発信し、WS等を開催しようとする者が、そのノウハウを活用できるようにすることが重要である。</li> <li>・今後も美大生やアーティストをはじめとする地域に開かれた場所として存続させるため、スポンサーシップなど民間事業者との連携も含め必要な実施体制を確保し、運営体制を強化すべきである。</li> <li>・基本構想では、後継施設を(仮称)美術館(橋本)としているが、施設の性格が市民や利用者、より正確に伝わるよう「美術館」との呼称は再考すべきである。</li> </ul>

# 評価基礎シート

## アートラボはしもと評価基礎シート

将来の再整備に向けた取組・各事業目標の達成度		(中間)	評価	説明欄	評価シート
評価目的	評価の視点				
将来の再整備に向けた取組	アートによる先進的・実験的な取組みを行っている。	/		当館が活動拠点となって「アートラボはしもとに関する基本協定」を結ぶ美術系4大学との連携によって事業を行ったことは、全国的にも例が少なく、先進的であった。また、「学生企画展」「SUPER OPEN STUDIO」「ワークショップ広場」等の先進的な取組みや、「ぼくらの未来授業」、ホームタウンチーム・農業者等との連携による実験的な取組みを行った。	
	将来の美術館運営(再整備後の新施設における事業運営)に必要な知識・経験を蓄積する取組みを行っている。	/		大学・大学生をはじめとする様々な主体との協働・連携による多様な事業を実施した。これらを通じて、再整備後の新施設において実施すべき事業の運営に必要な知識と経験を蓄積した。	
【事業目標1】 アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する	多様なワークショップなどの事業を実施している。	/		「学生企画展」「ワークショップ広場」「ぼくらの未来授業」等の当館主催事業や各大学主催事業のほか、様々な主体への協力等により、多様なワークショップを数多く実施した。	
	幅広い世代の市民を対象とした事業を実施している。	/		未就学児や小学生と保護者を対象とするものが中心であった。商店街関係者、地域住民や高齢者福祉施設入居者等を対象としたワークショップや、大人の来場者が中心である「SUPER OPEN STUDIO」なども実施したが、小学生等対象の事業に比べると少なかった。 幅広い世代へ向けた事業の拡充を図る必要がある。	
	事業実施に当たり、十分な周知をしている。	/		市広報紙、市ホームページや当館フェイスブック、駅や市関係機関、近隣の小学校等におけるポスター掲示、チラシ配布等により、事業の周知を行った。ワークショップ等への参加者は、比較的近隣の地域の住民、過去の事業に参加したりピーターが多かった。 より効果的な周知を行い、より広い市域、より幅広い世代の市民に参加を促す必要がある。	
市内の各地におけるアウトリーチ事業を実施している。	/		「SUPER OPEN STUDIO」や児童クラブ等におけるワークショップ、商店街や小学校等との連携によるアウトリーチ事業を実施した。一方で、学生企画展の関連企画、ホームタウンチーム等の連携事業等、アウトリーチ化し得ると思われる事業もあり、当館の事業全体としては不十分であった。 館内で実施した事業のアウトリーチ化の検討も含め、拡充を図る必要がある。		



評価目的	評価の視点	(中間)	評価	説明欄	評価シート
【事業目標2】 様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する	大学・大学生との協働・連携による事業を実施している。			「アートラボはしもと事業推進協議会」において、当館事業の方針、年間事業計画等の企画、立案等を行った。4大学の主催事業をはじめとして、「学生企画展」、児童クラブ等におけるワークショップ等の実施や、造形「さがみ風っ子展」等への参加など、様々な事業において、大学生と連携して取り組んだ。	
	地域との協働・連携により事業を実施している。			地域の各種団体との効果的な連携により、商店街の活性化に係る事業、小学校へ出張授業、自治会との協働によるイベントなどの事業を行ったが、件数が少なかった。 地域との協働・連携による事業の拡充を図る必要がある。	
	小・中・高校との協働・連携による事業を実施している。			小・中・高校との効果的な連携により、造形「さがみ風っ子展」等への参加、小学校へ出張授業、児童クラブ等におけるワークショップ、アートラボライブショーの実施など事業を行ったが、件数が少なかった。 小・中・高校との協働・連携による事業の拡充を図る必要がある。	
	その他異分野との協働・連携による事業を実施している。			様々な職業の市民、JAXA、農業者、市関係機関などの異分野との効果的な連携により、多様な事業を行った。高齢者向け事業の実施、ホームタウンチーム等との連携については、その連携の在り方に改善の余地があった。 異分野とのより効果的な協働・連携の在り方を検討する必要がある。	
	まちの活性化に資する事業となっている。			大学・大学生との連携による様々な事業や「SUPER OPEN STUDIO」の実施、商店街等主催の各種イベントへの協力など、まちの活性化に資する事業を行った。一方で、ホームタウンチームとの連携、アートラボライブショーの実施など、さらなるまちの活性化につなげ得ると思われる事業もあり、当館の事業全体としては不十分であった。 まちの活性化に資する事業の在り方を検討する必要がある。	
【事業目標3】 地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する	地域の若手アーティストを支援している。			「SUPER OPEN STUDIO」「ワークショップ広場」「アートラボライブショー」など地域の若手作家を支援するために効果的な事業を行ったが、件数が少なかった。 地域の若手アーティストへの支援の在り方を検討し、拡充する必要がある。	
	美大生に活動の場を提供している。			「学生企画展」「ワークショップ広場」の実施、造形「さがみ風っ子展」への参加をはじめ、小・中・高校、地域の商店街等の団体、市関係機関等との連携事業等において、美大生に多くの活動の場を提供した。	
	人材の育成を進めている。			「学生企画展」「SUPER OPEN STUDIO」の実施や、大学・大学生等と連携した様々な事業を通じて、人材の育成を促進した。一方で、ワークショップ広場、高齢者向け事業やアートラボライブショー等、さらなる人材の育成につなげ得ると思われる事業もあり、当館の事業全体としては不十分であった。 人材の育成に資する事業の拡充を図る必要がある。	

# 事業評価シート

## (16シート)

1. 学生企画展
2. SUPER OPEN STUDIO
3. ワークショップ広場
4. 児童クラブ等におけるワークショップ
5. ぼくらの未来授業
6. 大学・大学生との連携
7. 地域との連携(商店街・商工会議所等)
8. 地域との連携(市民団体・自治会等)
9. 造形「さがみ風っ子展」との連携
10. 小・中・高校との連携
11. JAXA との連携
12. 高齢者向け事業
13. ホームタウンチーム等との連携
14. みんなの畑プロジェクト
15. 市関係機関等との連携
16. アートラボ ライブショー

1	<b>学生企画展</b>	
事業概要	<p><b>「学生企画による学生作家の展覧会」の実施に向けた、公募の学生を対象とした長期育成型のワークショップ(以下、WS。)事業。</b></p> <p>・主として大学1・2年生を対象とした、1年以上にわたる長期育成型のWS。1年後に実施する「学生企画による学生作家の展覧会」のため、学芸員など専門スタッフの指導を受けながら、参加学生自らが企画立案、学生作家への出展交渉、広報活動、会期中の運営までを行う。</p> <p>・同展覧会では、作品展示のほかに、WSやトークショー、作品ガイドなども行う。</p> <p>・また、本展覧会に向けた準備のみならず、地域の祭りや児童クラブにおけるWSの企画・実施等の経験を通して、スキルアップを図る。</p> <p>相模原市民ギャラリーにてH13年度から開催。H24年度の当館開設に伴い、会場を移行。(相模原市民ギャラリーでの開催をあわせ、H29年度までに全11回を開催。)</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</b></p> <p>アートによるWSなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>学生作家による展示や作品に関連するWS等を通じて、美術を体験する場を提供する。</p> <p>大学生との連携により、アートによるまちの活性化に寄与する。</p> <p>特に企画側の参加学生の育成を重要視し、長期継続型のWSを通じて、展覧会やイベントを企画する力を培う。また、美大生に作家としての活動の場を提供することを通じて、アートに関わる人材を育成する。</p>	
実施形態	主催	
実施内容	H24	<p>「ぞっこんの法則」 夢中になる想いや行動がテーマ。移動壁の制作や大型のインスタレーション、パフォーマンスを行うアーティストを招致するなど、当館での展示方法のベースを築いた。</p>
	H25	<p>「ごはんのおとも～シャキシャキアートでホクホク食卓」 食がテーマ。事業を館外にまで拡大して、地元商店街と連携。飲食店と当館に漫画広告を設置し、双方が繋がって物語が完結するなど、工夫を凝らした。</p>
	H26	<p>「たつまきエメラルド」 日常的な視点の転換を「魔法」に例えた不思議な世界がテーマ。来場者にその世界を体感してもらうことを意識したインスタレーション作品などを展示。また、近隣マンションの住民と花火を模したアニメーション映像を共同制作し、当館の外壁に投影した。</p>
	H27	<p>「数でこころ 動くんだ！」 「数」に着目。数学科の学生による作品や、数値化した情報をデザインしたインフォグラフィックスの作品など、これまでとは異なるジャンルを開拓した。</p>

1	学生企画展																																																									
	H28	<p>「黄泉とき！おばけずかん」 「おばけ」がテーマ。形になって表れる心情を「おばけ」に例えた。巨大なクジラやお化け屋敷のような作品を展示。会期中に108のキャラクターが増える作品など、リピーターが楽しめる工夫をした。</p>																																																								
	H29	<p>「アートdeぼうけん！ラボランド」 「冒険」がテーマ。鑑賞を冒険に見立て、来場者は「ぼうけんにし(ワークシート)」を手に、順路に拘らず自由に館内を巡った。来場回数が増えることなどにより「経験値が上がる」趣向とし、リピーターも多かった。</p>																																																								
結果・成果	<p><b>事業目的</b> ・毎年コンスタントに多くの人を集め、6年間で11,602人も来場者があった。 ・作家の展示作品に関連するWSを6年間で53回実施。H29年度に実施した3つのWS(立ち寄り式を除く)の参加者アンケートにおける満足度の平均値は5点中4.5点と高い評価を得た。 ・企画側の学生が、開催前のプレ企画として、児童クラブでのアウトリーチWS等を行った。</p> <p><b>事業目的</b> ・H24年度～H28年度には、翌年度実施の学生企画展に参加する企画側の学生が、橋本七夕まつり会場において、展示やWSを行った。</p> <p><b>事業目的</b> ・会場を当館に移して以来、6年間で、延べ137人の学生(企画側67人・作家側70人)が参加。 ・企画側の学生は、WSの1年余の期間に40～60回の打ち合わせを行い、企画立案のほかチラシ等のデザイン、広報、会場設営など、あらゆる準備を幅広く体験した。 ・H25年度に企画側として参加した学生が、翌年度、当館に自主的に展覧会の企画を持ち込み、開催する事例もあった。 ・作家側の学生は、WSやトークショーなど、自身の作品の制作意図を伝えるためのプログラムを実践した。</p> <table border="1" data-bbox="352 1368 1358 1736"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日数(日)</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>14</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>来場者数(人)</td> <td>1,961</td> <td>2,005</td> <td>1,652</td> <td>1,022</td> <td>3,200</td> <td>1,762</td> <td>11,602</td> </tr> <tr> <td>参加学生数(人)</td> <td>27</td> <td>26</td> <td>24</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>17</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>    企画側(人)</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>    作家側(人)</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>WS開催数(回)</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>53</td> </tr> </tbody> </table> <p>WS開催数には立ち寄り式WS、ギャラリーツアーを含む。</p>			H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計	開催日数(日)	20	20	20	14	20	20	114	来場者数(人)	1,961	2,005	1,652	1,022	3,200	1,762	11,602	参加学生数(人)	27	26	24	20	23	17	137	企画側(人)	11	14	11	9	13	9	67	作家側(人)	16	12	13	11	10	8	70	WS開催数(回)	7	5	10	7	15	9	53
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	合計																																																			
開催日数(日)	20	20	20	14	20	20	114																																																			
来場者数(人)	1,961	2,005	1,652	1,022	3,200	1,762	11,602																																																			
参加学生数(人)	27	26	24	20	23	17	137																																																			
企画側(人)	11	14	11	9	13	9	67																																																			
作家側(人)	16	12	13	11	10	8	70																																																			
WS開催数(回)	7	5	10	7	15	9	53																																																			
課題	<p>・企画側として参加する学生数が減少傾向にあり、H30年度は実施を見送った。参加者数増のため、育成WSの期間の短縮や、大学との連携による単位修得等の検討が必要。</p>																																																									
その他特記事項																																																										

1		学生企画展				
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・毎年、多様な学生作家による展示、関連するWSを行った。夏休み期間中の開催であり、小中学生、親子連れ、大学生を中心に多くの来場者を集め、WS参加者のアンケートにおける満足度も高かった。 ・各方面の協力により、バスの中吊り広告、新聞折込等で周知を図った。 ・児童クラブでのWS等を行ったが、1年以上の長期にわたり大学生が関わる本事においては、アウトリーチ事業をより多く実施する余地があった。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・例年、企画側の学生が、橋本七夕まつり会場において、展示やWSを行った。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・1年以上にわたり、展覧会の企画・運営、作品の展示を行うなど、学生に活躍の場を提供し、指導を通じて人材育成に取り組んだ。	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度	(理由) ・学生が展覧会を企画するための長期WSは全国的にも例が少なく、先進的であると言える。 ・新施設における事業運営のために十分な知識・経験を蓄積することができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	来場者が多く、WSも好評な事業であり、学生の育成の場としても有効な事業である。当館の主たる事業のひとつであり、新施設での事業再開に向け、企画側の学生が参加しやすい仕組みづくりを検討する。				

2	SUPER OPEN STUDIO
事業概要	<p><b>本市と近隣地域に所在する、若手作家を中心としたスタジオ(制作現場)を一斉に一般公開する事業。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジオの公開を通じて、相互間並びに地域住民との交流の機会を設ける事業として、H25年度より開催。</li> <li>・例年、20を越えるスタジオ、100人を超える所属作家が参加。</li> <li>・H26年度より、各スタジオを巡るバスツアーを実施。</li> <li>・会期中は当館においても、作品展示、公開制作、WS、トークショーなど様々なプログラムを実施。</li> <li>・H25年度の事業立ち上げ当初は市が主催したが、作家の自立とより活発な活動を目指し、H27年度からスタジオ所属作家たちで構成されるグループ(Super Open Studio NETWORK)が主催。(H30年度から、実行委員会主催に移行。)</li> </ul>
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>アートによるWSなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</b></p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>
【中項目】 本事業の 目的	<p>市内および近郊に所在する作家のスタジオを公開することで、市民に美術体験の機会を提供する。</p> <p>作家とのネットワークを形成することで、作家・美大生が住むまちとして、市内外に向けてPRする。</p> <p>多くの来場者が訪れるよう交流機会の確保に努め、作家活動の充実に繋げる。</p>
実施形態	<p>主催 H25年度～H26年度 共催 H27年度～H29年度(主催:Super Open Studio NETWORK) H30年度より実行委員会形式に移行</p>
実施内容	<p>H25</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各スタジオでは展示、WS、パフォーマンスなどを独自に企画。</li> <li>・当館ではスタジオを紹介するコーナーや作家・千葉正也氏による公開制作を実施。</li> <li>・関連プログラムとして、近郊の絵画教室などを紹介する「ワークショップ広場」やパフォーマンスにスポットを当てた「アトラボレイトショー(ライブショー)」を実施することでエリアを包括的に紹介(上記2事業はその後、独立事業として継続実施)。</li> </ul> <p>H26</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館において、参加スタジオ「二DEC」(石坂翔氏、鮫島大輔氏)による公開制作を行い、大型の駆動作品を展示。また、作家がスタジオに所属する他の作家を推薦・選出して企画する展覧会「Aristis Recommendation」を開催。</li> <li>・二DEC、吉原宏紀氏が子ども向けWSを実施。</li> <li>・作家が黄金町バザールの公募プログラムとして、横浜と相模原を結ぶスタジオバスツアーを会期中に運行。</li> </ul> <p>H27</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施形態を市主催から、Super Open Studio NETWORK主催に移行して開催。作家たちが毎月会議を行い、実施に向けて準備を行う。</li> <li>・各スタジオ間を巡るバスツアーを4本運行。</li> <li>・参加作家による当館の諸室を展示会場とした展覧会「SOMETHINKS」を開催(H27年度以降、毎年度開催)。</li> <li>・朝日新聞文化財団、東京造形大学校友会、多摩美術大学校友会からの助成、協賛を受けて実施。</li> </ul>

2	SUPER OPEN STUDIO	
実施内容	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知活動の一環として、橋本駅前から当館までを、いわゆるチンドン屋に依頼し、ビラ配りを行った。市内を循環するバスにも中吊り広告の協力を依頼することで市民に向けて幅広く周知した。</li> <li>・当館において、富田めぐみ氏(NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会)を講師に招き、未就学児向けの鑑賞プログラム「赤ちゃんと発見！アート鑑賞」を実施。</li> <li>・バスの収容人数やツアー本数(定員10人 20人、4本 5本)を増やした。</li> <li>・スタジオとその所属作家の参考作品を掲載したSOSBOOKを発行し、全国の美術館などに献本。</li> <li>・花王芸術・科学財団、朝日新聞文財団、野村財団、東京造形大学校友会、多摩美術大学校友会から助成、協賛を受けて実施。</li> </ul>
	H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報作業やバスツアーのガイドなど、多くの作家が運営にも関わる。</li> <li>・作家、キュレーター、批評家など14人が寄稿したSOSBOOKを刊行。</li> <li>・東京造形大学、多摩美術大学、横浜市民ギャラリーあざみ野においてトークイベントを実施。</li> <li>・福武財団、三菱UFJ信託地域文化財団、朝日新聞文化財団、東京造形大学校友会、多摩美術大学校友会、株式会社studio banから助成、協賛を受けて実施。</li> </ul>
	H27 ～ H29	<p>「スーパーオープン・ダイアログ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作家の呼びかけにより、「Super Open Studio NETWORK」の主催事業として実施。作家同士の相互間の密度を高めるとともに、その活動を広く市民に紹介するために実施。毎回2～3人の作家が発表者となり、自身の作品や制作意図などについて語った。(全18回実施し、53人が登壇)</li> </ul>
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内(及び近隣)の作家たちのスタジオ(制作場)を公開し、相互間並びに地域住民との交流の機会を設ける事業として、美術関係者からも高い評価を得ている。</li> <li>・H25年度～H29年度の5年間で各スタジオ、当館あわせて18,969人が訪れた。</li> <li>・回を追うごとにバスツアーの参加人数が増加し、これに伴い、ギャラリスト、コレクター、学芸員、海外からの参加者も増え、多様な交流の場となった。H27年度～H29年度のバスツアーの参加者は延べ196人。</li> </ul>	
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スタジオ公開により作家たちの交流の機会となっている。毎年、近隣の住民も訪れるなどの効果が出ている。</li> <li>・本市との連携に加えて、作家が助成金を申請して、運営を行っている(H26年度～H30年度までに16件)。特に、東京造形大学校友会(H27年度～H30年度)、多摩美術大学校友会(H27年度～H30年度)から協賛金を得て活動していることで、卒業後に大学との連携をする機会となった。また、在校生に向けて周知する機会にもなった。</li> <li>・黄金町バザール、横浜市民ギャラリーあざみ野など、他市の文化施設と連携することで本事業の周知活動を幅広く行った。</li> <li>・様々な主体の交流を目的とした「アトラボレイトショー(ライブショー)」、絵画教室を紹介する「ワークショップ広場」についてはジャンルを横断した交流があったが、会場スペースの手狭や事業の拡大を受けて、それぞれ独立したイベントへと移行した。(ワークショップ広場H26年度～H28年度、アトラボレイトショー(ライブショー)H26年度～H29年度まで実施)</li> <li>・会期後に、公民館、市内文化施設からの依頼を受けて、参加作家と連携事業を実施した。(清新公民館(H28年度)、市民・大学交流センター(H29年度))</li> <li>・起業家、建築家、デザイナーなどから事業に対しての問合せもあり、美術関係者以外にも注目を集めている。</li> <li>・メディアに活動を取り上げられる機会も多く、H29年度は10件のメディアに掲載。(美術手帖2017年1月号レビュー、美術手帖2018年4月号アートコレクティブ特集などに掲載)</li> </ul>	

2

## SUPER OPEN STUDIO

## 事業目的

・H27年度からは、参加作家たちで組織された「Super Open Studio NETWORK」が主催となり、より充実した内容の活動を行い、作家の主体性・自主性を尊重した取り組みとなる。

・多くの美術関係者と交流することで、作家活動の幅を広げる機会にも繋がっている。

・H29年度には東京造形大学、多摩美術大学で作家がトークイベントを実施したことで在学生に向けて周知も行えた。卒業生などがスタジオに所属することで、安定したスタジオ運営にも繋がっている。

・スタジオを公開することで、制作現場の環境を整える機会に繋がる、制作を再開する作家が現れるなど、スタジオ内の活性化・充実が図られた。

・当館には毎年、スタジオを探している作家からの問合せもあり、スタジオを訪問した美大生や作家がスタジオに所属する、この地域に新たにスタジオを構えるなどのネットワークの拡張が起きている。

## 結果・成果

	H25	H26	H27	H28	H29	合計
開催日数	32	20	20	20	20	112
来場者数	3,683	2,529	4,358	4,526	3,873	18,969
参加作家	107	118	112	112	125	574
参加スタジオ軒数	20	22	23	23	23	111
WS開催回数	10	3	9	13	15	50
バスツアー参加者			39	73	84	196
ダイアログ登壇者			9	27	17	53

来場者数は、各スタジオと当館の合計。

WS開催数には公開制作、公演、立ち寄り式WS、ギャラリーツアー、バスツアーなどのプログラムを含む。

## 課題

・安定した事業を継続して運営していくためにも、一部の作家の過度な負担にならない役割分担が必要となる。

・作家たちの意向によって実施される事業であるため、毎年協議が必要である。

・来場者層には偏りがあり、幅広い年代の集客には至っていない。

その他  
特記事項



2	SUPER OPEN STUDIO					
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各所のスタジオを公開することにより、市民が美術体験できる機会が増え、市内外からも多くの来場者が訪れた。</li> <li>・当館においても、作品展示、WSを実施。</li> <li>・事業のウェブサイト、報道機関や美術関係者等へのパンフレットの送付等によって周知を行い、全国の美術関係者や外国人の参加者が年々増えるなど、注目度の高い事業である。</li> <li>・一方で、幅広い年代の集客には至っていないため、改善を図る必要がある。</li> </ul>	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市との連携の他に、大学・企業への助成金・協賛金を得て、運営している。</li> <li>・東京造形大学、多摩美術大学での講義を実施するなど大学連携も盛んである。</li> <li>・関係者が他美術館などでの講演に招かれたほか、雑誌等のメディアにも紹介されるなど、本市のシティセールスに寄与している。</li> </ul>	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生が在学中から、各スタジオの作家と交流をもち、卒業後にスタジオに所属する、あるいは新たにスタジオを構える等の動きが増えてきている。</li> <li>・事業の支援を行うことで、市域における若手作家の制作活動の充実やスタジオの活性化の一助を担った。</li> <li>・若手作家たちのグループが主催を担うなど活動が活発化され、アートに関わる人材の育成に寄与した。</li> <li>・当館の実施する他事業に作家たちが参加するなど、活動の場を広げている。</li> </ul>	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の設置目的の達成度	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年多くの来場者を集める本事業は、スタジオ公開としては全国でも類を見ない大規模なものであり、先進的な取組みと言え、新施設における事業運営のために、十分な知識・経験を蓄積することができた。</li> <li>・また、今後の事業実施についても作家等との関係性が十分に活かされると考える。</li> </ul>	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業実施の考え方	<p>実施する</p> <p>近郊のスタジオと連携をすることは、本市ゆかりの作家の動向調査にも繋がり、将来の美術館運営に向けての重要な要素となる。 また、多くの作家が当館と基本協定を結ぶ4大学の卒業生であることから、他事業においても連携する機会も多く、そのためにも今後も継続した事業として行うべきである。</p>					

3	ワークショップ広場	
事業概要	<p><b>地域の絵画教室や造形教室等で行われているWSを当館において一堂に集め、実施する事業。</b></p> <p>・絵画教室・造形教室、または大学の研究サークルなど、造形体験学習を専門的に行う人たちをによる、様々な手法のWSを一堂に集め、実施。  ・事前に、主宰者がどのような考えに基づいて活動を行っているのか等を調査し、講師を選定。その調査結果は、アートに関わる人材の情報として蓄積し、ネットワークづくりの基礎とする。また、WS実施におけるノウハウを学び、当館の実施プログラム向上につなげる。  H25年度は他事業の中のひとつのプログラムとして、H26年度からH28年度までは独立した事業として実施。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>アートによるWSなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</b></p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>各絵画教室・研究会の特色あるWSを実施し、市民に豊かで創造的な造形体験を提供する。</p> <p>WSの専門家たちに関する調査を行い、アート資源の情報として蓄積するとともに、そのネットワークを広げ、魅力的なまちづくりの一助とする。</p> <p>絵画教室・造形教室と連携することにより、その主宰者である若手作家などを支援するとともに、美大生による美術教育研究サークルなどに活動の機会を提供する。</p>	
実施形態	主催	
実施内容	H25	「SUPER OPEN STUDIO」の1事業として実施。「つばめクラブ」「アトリエsanbon」「おえかきごや」の3造形教室による子ども対象・大人対象の3プログラムを実施。
	H26	1事業として独立。「アトリエ・ヒュッテ」「だんでいらいおん」「くま」「こぺん」の4造形教室、並びに女子美術大学児童研究会、青山学院苅宿研究室の学生などによる子ども対象・大人対象の9プログラムを実施。各教室の活動内容をパネルで紹介。また、大学教授らにより「WSの可能性」をテーマとしたシンポジウムも実施。
	H27	「アトリエ・ロコ」並びに武蔵野美術大学造形教育研究会、桜美林大学草の根国際理解教育支援プロジェクトの学生などが参加。留学生も交えた11プログラムを実施。また、公民館の社会教育主事などを招き「生涯教育」をテーマとしたシンポジウムを実施。
	H28	「アトリエ・アオ」やNPO「赤ちゃんからのアートフレンドシップ協会」、当館の福祉ワークショップの参加学生などにより、赤ちゃんから高齢者までを対象とした14プログラムを実施。また、みんなのためのアートという視点から福祉関係者などを招き「福祉」をテーマとした活動発表会を実施。

結果・成果

## 事業目的

・市内外の9ヶ所の絵画・造形教室や5つの研究会などが参加協力。4年間で37プログラム(当館が担当した立ち寄り式WSやシンポジウム等を含む)を実施し、合計1,258人の市民が参加した。また、年度ごとに「生涯学習」や「福祉」などテーマを決め、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代が参加できる内容とした。

		H25	H26	H27	H28	合計
WS 開催数		3	9	11	14	37
参加造形教室数等	造形教室数	3	4	1	1	9
	研究会数 (大学関連)	0	2	2	1	5
	グループ数 (任意学生)	0	1	1	2	4
	作家数 (個人)	0	0	1	3	4
	その他 (当館スタッフ)	0	2	4	3	9
WS 参加者数		124	253	431	450	1,258

WS 開催数には、立ち寄り式ワークショップやシンポジウムを含む。

## 事業目的

・それぞれの絵画・造形教室や研究会を訪れ、主宰者の考え方や日頃の活動を調査し、それをまとめてパネルで紹介した。また、シンポジウムなどを3回開催し、意見交換を行うなどして教室や研究サークル間のネットワークづくりを行った。

## 事業目的

子どもを対象とした造形教室や大人を対象とした絵画教室など、9ヶ所の教室がそれぞれ特徴的なWSを実施。教室主催者には、自身の教える生徒以外の市民に対して、日ごろの活動を紹介する機会となった。また、大学の研究サークルには、通常活動を行う小学校や児童施設以外の場でWSを行うことにより、自分たちの新たな可能性を見出すこととなった。

課題

・絵画教室、造形教室や研究会をPRするための事業だが、当館が行う参加費無料のWSが場合によっては各教室などの経営に影響を与えることも考えられ、参加に難色を示されることもあった。また、教室の特徴を示すには1回程度のWSでは難しいものがある。  
・個人経営の絵画教室とは異なり、カルチャーセンターなどで行われている絵画教室は企業に属するものであるため、連携は見送っている。

その他  
特記事項

3	ワークショップ広場				
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・教室や研究会・サークルの主宰者ごとに様々な考えや手法を持っており、赤ちゃんから高齢者まで幅広い世代を対象とした、多様なワークショップを行うことができた。 ・チラシ等での周知により、安定的に多数の参加者を集めた。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・市内外の教室や大学の研究サークル等の特徴や考え方などを調査研究し、情報を蓄積した。 ・また、シンポジウムの開催等により、主宰者等のネットワークづくりも行った。 ・これらの人的資源に関する情報は、アート事業を実施する際の講師依頼等の連携に生かされ、魅力的なまちづくりの一助となった。 ・ただし、未調査の教室も多く、全貌を見渡すには至っていない。	大学・大学生	地域	小中高	異分野 まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・美大生は、本事業で紹介されたWSを、自分たちが実施する際の参考にしている。 ・また、当館が、各教室や研究サークル等の主宰者を招いてシンポジウム等を開催し、市民との意見交換等を行うことにより、主宰者にも新たな発見の場になっているものと考えられる。 ・一方で、継続的な当館との関わりを築けている主宰者等は一部に限られており、アートに関わる人材育成にまでは至らなかった。		美大生活動	人材育成	
施設の 設置目的 の達成度	(理由) ・多種多様なWSを一堂に集め、紹介する事業は、全国的にも例が少なく、先進的であると言える。 ・新施設での事業実施に向け、十分な知識や経験の蓄積ができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積		
今後の事業 実施の考え方	<p>実施内容や手法等の改善を図り、実施する</p> <p>本事業については、調査や交渉などに時間を要し、また、専門家の知識・経験が必要となるため、H29年度以降は実施していない。しかし、「ワークショップ」をキーワードに、絵画教室・造形教室・研究サークルなどを調査し、それを一堂に集めて様々なWSを実践するとともに、シンポジウムなどによってネットワークを築き、官民が一体となってアートでまちを活性化しようとする試みは当館ならではの発想であることから、再開に向けた検討を進める。</p>				

4	<b>児童クラブ等におけるワークショップ</b>	
事業概要	<p><b>当館近隣の児童クラブ等において、美大生などが講師となって工作WSを行うアウトリーチ事業。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館から徒歩圏内の小山児童クラブ(小山小学校内に所在)に通う児童を対象とした出張プログラムを実施。H29年度までに24回開催。</li> <li>・美大生と子どもたちとの交流の場、美大生が経験を得る場所として、学生企画展の参加学生や博物館実習生等が参加。</li> </ul> <p>「児童クラブ」保護者(父母等)が就労等により、昼間家庭にいない児童を預かり、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図る施設。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>子どもたちの身近な場所で創作活動の機会を提供する。</p> <p>美大生との連携により、定期的なWSを実施する。また、当館が継続的に本事業を実施することにより、地域に親しまれる施設を目指す。</p> <p>美大生に活動の場を提供することで、自らが企画、実践をする力を培う。</p>	
実施形態	主催 *一部のプログラムは他主催事業の一環として実施	
実施内容	H24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京造形大学から教員志望の学生の実践の場の提供について依頼があり、近隣の児童クラブに工作活動の時間の確保について協力を依頼。東京造形大学の学生が企画した工作プログラム「くるくるスター」を実施。</li> <li>・市内の小中学校の図工作品が一堂に展示する造形「さがみ風っ子展」にて成果品を展示。</li> <li>・「くるくるスター」のほか、「ステンシル年賀状を作ろう」を実施。</li> </ul>
	H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生企画展、博物館実習生、多摩美術大学学生有志グループの実践の場として、児童クラブにて工作プログラムを定期的実施。児童クラブからのリクエストにより、館内の掲示板に飾る季節を感じる作品作りを行う。</li> <li>・神奈川県教育委員会の依頼により、教員の研修科目として工作プログラムを企画・実施。</li> <li>・「野菜はんこでメッセージカードをつくろう」、「ちぎり七夕星かざり」、「カリカリドンドンにじいる花火」、「秋の葉をつくろう」、「キラ ピカ！クラゲ」、「スノードームをつくろう」、「アート絵馬をつくろう」、「メッセージカードをつくろう」の計8プログラムを実施。</li> </ul>
	H26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「納涼 風鈴クラゲ」、「カラフルサンフラワー」、「カラフルトンボをつくろう」、「チョコキョキクリスマスリース」、「くるくるカラフルにじいる花束」の計5プログラムを実施。</li> </ul>
	H27	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆらゆら！かたつむり」、「ぺたぺた！深海生物！」、「切って貼って！桜を咲かせよう！」の計3プログラムを実施。</li> </ul>

4	児童クラブ等におけるワークショップ																																						
	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「キラキラ スーパーオシャテルぼうず」、「暑中見舞いをかこう!」、「自分だけの雪の結晶をつくろう!」、「桜の花を咲かせよう! パタパタ目標カード」の計4プログラムを実施。</li> <li>・こども施設課が主催する第48回児童工作展に参加。大型商業施設を会場として、立ち寄り式のWS「さがしてみよう! イロイロいきもの」を実施。</li> </ul>																																					
	H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「TRICK OR TREAT ~みんなで唱える魔法のコトバ~」、「いろんなモノで海のいきもののもようをつくろう」の計2プログラムを実施。</li> </ul>																																					
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H24年度～H29年度までに24回の工作プログラムを実施。1,554人もの子どもたちが参加。</li> <li>・美大生と一緒に活動することで、普段図工が苦手な子どもたちも参加した。</li> <li>・毎年、児童クラブの子どもたちを夏休みに招待して、当館での鑑賞ツアーを実施することで子どもたちに工作プログラムとは異なる美術体験の機会を提供した。</li> </ul>																																						
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業の実施によって当館の存在が知られることにより、放課後や休日に当館を訪れる児童が増え、保護者からも安全な施設として認知された。</li> <li>・子どもたちが当館に対して親近感を抱き、小山小学校の校外授業「まちたんけん」において「訪れたい施設」となった。(H28年度より毎年度受け入れ)</li> <li>・当館との繋がりができたことにより、同校には、当館の他事業のチラシ配布などにも協力いただいた。</li> <li>・活動の継続により、他児童クラブやこどもセンターからも工作プログラムの実施依頼が寄せられるようになった。</li> <li>・H24年度に児童クラブでの工作プログラムの成果報告として、市立小・中学校の図工作品が一堂に展示される造形「さがみ風っ子展」に作品を展示したことで、翌年度以降から小・中学校との連携を図るきっかけとなった。</li> </ul>																																						
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちと交流する大学生の実践の場として、H24年～H29年度で137人の美大生が参加した。</li> <li>・当館から徒歩圏内にある児童クラブの活動は、WSの企画・運営に興味がある美大生にも紹介しやすく、安定した人材育成の場となっている。</li> </ul>																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日数</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>参加者数 (子ども)</td> <td>100</td> <td>480</td> <td>400</td> <td>152</td> <td>259</td> <td>163</td> <td>1,554</td> </tr> <tr> <td>参加者数 (学生)</td> <td>10</td> <td>27</td> <td>41</td> <td>18</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>137</td> </tr> </tbody> </table>			H24	H25	H26	H27	H28	H29	計	開催日数	2	8	5	3	4	2	24	参加者数 (子ども)	100	480	400	152	259	163	1,554	参加者数 (学生)	10	27	41	18	20	21	137						
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計																																
開催日数	2	8	5	3	4	2	24																																
参加者数 (子ども)	100	480	400	152	259	163	1,554																																
参加者数 (学生)	10	27	41	18	20	21	137																																
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブに通う子どもたちの増加により、準備や当日の運営に多くの人手を要する。(H24年度約60人 H29年度約100人)</li> <li>・他の児童クラブ等での実施の検討にあたっては、参加学生の交通手段の確保が必要である。</li> </ul>																																						
その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料にかかる経費は小山児童クラブが負担。</li> <li>・上記の小山児童クラブのほか、H26年度には二本松こどもセンターにて、東京造形大学の学生有志4人による「にじいろのさかなをつくろう」を実施。二本松児童クラブの子どもたち40人、こどもセンターに集う20人が参加。経費は同センターが負担。</li> </ul>																																						

4		児童クラブ等におけるワークショップ				
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・当館の開館以来、H29年度までに24回のアウトリーチ事業を実施し、1,554人もの児童が参加した。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・教員を目指す美大生の実践の場を求める大学からの要望によって事業を実施した。 ・活動を通じて、保護者にも当館の活動が伝わり、地域に親しまれる施設となった。 ・児童クラブから定期的な活動の依頼を受けており、学校との連携を担っている。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・学芸員、教員を目指す学生が経験を積む、人材育成の場となっている。 ・美大生のみならず、当館の若手スタッフの実践の機会となり、工作プログラムの質の向上にも繋がった。	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の設置目的の達成度	(理由) ・美大生が企画する子ども向けの事業を児童クラブで実践する取組みは、実験的なものである。 ・出張プログラムの手法、子どもへの対応等について、新施設における事業運営に向けた十分な知識・経験を蓄積することができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	近隣の児童クラブとの連携は、美大生が実践力を高めるアウトリーチ先として、また、地域に当館活動をPRする場所として最適な拠点である。今後、他の児童クラブでの実施にあたり、参加学生の交通手段の確保等について、課題の解決を図る。				

5	開講！ぼくらの未来授業	
事業概要	<p><b>市域の様々な職業の人が講師となり、各自の技術・能力にアートの要素を加え、小学生向けのWSを行う事業。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職人や音楽家・スポーツ選手など、様々な技術や能力・実績を持ち、子どもたちの憧れでもあるプロフェッショナルの市民が「先生」となり、その技術などにアートのエッセンスを加えた数々の「授業」(WS)を行う。</li> <li>・より多様な人がアートに関わり、ともに考え、実践することを目指した市民協働プログラム。</li> <li>・様々な分野で活躍する講師を紹介することを通じて、まちの魅力づくりに結びつける。</li> </ul> <p>H25年度～H26年度は他事業の中のひとつのプログラムとして実施。H28年度からは独立した事業として実施。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</b></p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>職人や技術者など、アートの専門家ではない人が講師となることにより、幅広い市民がより参加しやすいWSを提供する。</p> <p>市民がWSなどを提供する企画者側に立つことで市民連携を構築するとともに、それらの人々を紹介することにより、まちの魅力の発見に貢献する。</p>	
実施形態	主催	
実施内容	H25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「春の感謝祭」の一環として、「大工さんの木材工作教室」を2回実施。ベテランの建築技術者(大工)が使う専用の道具を使って、子どもたちが巣箱などを作成。</li> <li>・単独のプログラムとして、プロレスラーが先生となり、自分でデザイン・制作した覆面を被った子どもたちがリングの上で汗を流す「アートな覆面レスラーになろう」なども実施。</li> </ul>
	H26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢へのイロハ」の一環として、市民講師(職業人)による4プログラムを実施。</li> <li>・医師が先生となり、骨格の勉強をした後に蓄光塗料を使って、自分のカラーのレントゲン写真を撮る「カラフル・レントゲン」。</li> <li>・会社経営者が先生となり、自分でデザインした名刺で子どもたちが名刺交換を行う「社長たちの名刺交換」。</li> <li>・エンジニアが設計した図面で一輪挿しを組み立てる「変身 一輪挿し」。</li> <li>・自分でつくった和菓子を再現して店で販売してもらおう「和菓子職人になろう」。</li> </ul> <p>H26年度においては、「理科」= 医師、「社会」= 会社経営者、「技術」= エンジニア、「家庭科」= 和菓子職人など学校の授業を模して実施。</p>
	H27	<p>「ご縁の描きかた」の一環として、農家の方を先生に当館の敷地を開墾して野菜づくりの準備をした「野菜コトハジメ」を実施(のちに「みんなの畑プロジェクト」として実施)。</p>



5	開講！ぼくらの未来授業																																			
実施内容	H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記者が先生となり、子ども記者が大人の職場(翌年の「未来授業」の先生宅)を取材し、自分たちで新聞をつくり配布する「街人新聞」を実施。</li> <li>・市民が先生を務めるプログラムをまとめた独立事業「開講！ぼくらの未来授業」として、以下のプログラムを実施。</li> <li>・マリンバ演奏者が先生となり、装飾したステージで自作の演奏を行う「マリンバで音楽家になろう」。</li> <li>・呉服店主が先生となり、和模様の紙バックを作る「はんなり和模様デザイナー」。</li> <li>・表具店主が先生となり、和紙を張って障子インテリアを作る「和のひかり」など。</li> </ul>																																		
	H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H28年度同様「開講！ぼくらの未来授業」として、以下のプログラムを実施。</li> <li>・塗装店主が先生となり、古色塗装を施す「エイジングペイント体験」。</li> <li>・煎餅の袋のラベルをデザインし、それを貼って実際に販売してもらう「デザイナーになろう」。</li> <li>・観光会社の代表が先生になり、子どもたちが宇宙人向けの観光パンフレットを作成し、後日、そこを訪れた宇宙人から写真入りの手紙が届く「宇宙人旅行」など。</li> <li>・H28年度に引き続き、「街人新聞」も制作。</li> </ul>																																		
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大工・プロレスラー・医師・和菓子店・呉服店・表具店・新聞記者など、一般にアートと縁遠いと思われる市民を講師(先生)に招き、その技術や才能を活かしたその人ならではのユニークなWSを市民に提供することができた。</li> <li>・また、WS開催に先立ち、子どもたちが講師となる人の職場を訪ねてインタビューし、「街人新聞」を制作するWSも行った。新聞は、本事業開催中に館内で配布した。</li> </ul>																																			
	<table border="1" data-bbox="352 1115 1257 1429"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WS開催数</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>8</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>市民講師によるプログラム</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>美術関係者の講師によるプログラム</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td>4</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>WS参加者数</td> <td>102</td> <td>105</td> <td>11</td> <td>219</td> <td>169</td> <td>606</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 本事業を独立したプログラムとして実施したのはH28年度以降であるため、H27年度以前は「市民講師(職人)によるプログラム」のみをカウント。  * 「美術関係者の講師によるプログラム」とは、職人などではなく、作家や美大生・当館スタッフが講師を務めたもの。  * WS参加者は、街人新聞を含む。講師が立ち会わない立ち寄り式WSは除く。</p>			H25	H26	H27	H28	H29	合計	WS開催数	3	4	1	11	8	27	市民講師によるプログラム	3	4	1	6	4	18	美術関係者の講師によるプログラム				5	4	9	WS参加者数	102	105	11	219	169
	H25	H26	H27	H28	H29	合計																														
WS開催数	3	4	1	11	8	27																														
市民講師によるプログラム	3	4	1	6	4	18																														
美術関係者の講師によるプログラム				5	4	9																														
WS参加者数	102	105	11	219	169	606																														
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民を企画者側に迎えて一緒に考えるという、当館ならではの市民協働を実践することができた。その人たちはWS終了後に当館の良き理解者となっている。また、WSの成果として子どもたちがつくった和菓子や煎餅の包装袋のラベルを復元して商品に使うなど、商品開発の試みも行われている。</li> </ul>																																			
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムの企画打合せにおいては、先生役を務める市民の技術・能力を子ども向けのアートプログラムに結びつけることに苦慮した。事業の継続のためには、本事業を理解し、先生役を務めていただける職人・技術者などを探し出す取組みを行い、また、継続実施によって本事業が広く認知され、協力を積極的な人材が現れるような好循環を生み出すことが重要となる。</li> </ul>																																			
その他 特記事項																																				

5		開講！ぼくらの未来授業					
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・アートの専門家ではない職人などを講師に招いたことにより、これまでにない切り口のユニークなWSを子どもたちに提供した。 ・講師となる大人にとっても、当館と連携して、企画段階から作りあげるWS体験となっている。 ・市広報紙への掲載等、効果的な周知により、安定的に多数の参加者を集めた。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・医師や会社社長・プロレスラーなど、アートと縁遠い職業と思われる人によるWSが魅力的なものとなった。これは「アートは何とでも融合できる」という可能性を示すものである。 ・和菓子店や煎餅店の職人によるWSでは小規模ながらも商品開発の試みが成され、まちの活性化に繋がる可能性が示唆された。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
施設の 設置目的 の達成度		(理由) アートを通じた地域の活性化は市民とともに推進するものであり、そのためには一緒に考え、実践する側に立つ、本来の意味での市民協働を行わなければならない。本事業は実験的にこれを実践したものである。アートと無関係な技術や能力が企画次第でWSとして成立し、参加者に喜ばれたほか、講師を務めた市民が当館の良き理解者となり、新施設の事業運営に向け、十分な経験を蓄積することができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	市民の技術や能力をアートを介して活用し、ともに考え、実践する本来の市民協働の形を提示することは当館の大きな試みであり、今後、再開すべきである。そのためには、講師を務める市民を見出し、その能力をWSとして昇華させる企画力が必要であることから、職員体制などを見直す必要がある。					

6	大学・大学生との連携	
事業概要	<p><b>「アートラボはしもとに関する基本協定」(以下、協定)を締結する美術系4大学の主催事業、あるいは有志の学生企画の事業等において、大学生が、当館学芸員等の協力のもと、主に当館を会場としたWSや展示等の学外活動を行うもの。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協定を締結している4大学(女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学)と本市とで構成する「アートラボはしもと事業推進協議会」において、当館事業の方針、年間事業計画等を企画、立案する。</li> <li>・上記4大学の主催事業について、当館を共催として実施する。この際、事業内容や、当館の学生に対する指導・関わり方については、都度、大学と協議する。</li> <li>・また、学生企画展を経験した学生をはじめ、有志の学生による企画を当館で実施するにあたり、その実現に向け、当館学芸員等が支援する。</li> <li>・また、博物館学芸員実習生を受け入れたプログラムを実施。</li> </ul> <p>本事業評価シートにおいては、他の事業評価シートにおいて扱った事業を含め、総合的に大学、大学生との連携について評価する。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>大学、大学生による多様なワークショップなどを実施することで、美術を体験する場を提供する。</p> <p>定例的に開催する「アートラボはしもと事業推進協議会」における当館の事業運営の協議を通じて、大学・大学生の活動を幅広く展開することで、まちの活性化に寄与する。</p> <p>大学・大学生の実践の機会を提供する。また、大学生からの提案の実現にむけて支援を行う。</p>	
実施形態	主催 (女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学とともに主催)	
実施内容	H24 ~ 29	<p>「アートラボ事業推進協議会」の開催 「アートラボはしもとに関する基本協定」を締結している4大学(女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学)と本市とで構成する「アートラボはしもと事業推進協議会」を設置。「大学と市が連携して、先進的・実験的な事業な事業を実施することにより、アートによるまちづくりを推進すること」を目的として、事業実施方針の立案、年間事業計画の企画・立案、活動報告などを行った。</p> <p>H24年度 11回 / H25年度 11回 / H26年度 6回 / H27年度 6回 / H28年度 6回 / H29年度 6回</p>

6	大学・大学生との連携	
実施形態	共催（主催：東京造形大学）	
実施内容	H24 ~ 29	<p>「東京造形大学大学院 造形プロジェクト」 当館を拠点とした美術活動として行う、大学院生へのプロジェクト科目。 企画・立案を参加学生が行い、展覧会やWSを实践する。また、参加者によるトークイベントの他、専門家を招いた「レクチャー+トーク」と題して、アーツ前橋館長の住友文彦氏（H26年度）、アーティストの林僚児氏（H27年度）のゲストトークを实施するなど、毎年、参加者が様々なテーマ設定をして、多くの実験的試みを実施。</p> <p>H24 「Resonance 共鳴」 参加学生10人 H25 「このシンクロにこのシティ」 11人 H26 「うつろいつつうらうら」 20人 H27 「みなものみかた」 9人 H28 「ユートピアート」 5人 H29 「それは、きぐうですね。」 8人</p>

6	大学・大学生との連携	
実施形態	共催 (主催:東京造形大学附属美術館)	
実施内容	H24 ~ 29	<p>「東京造形大学附属美術館企画」 東京造形大学附属美術館主催による事業として、展覧会やWSを実施。同大学の教員や卒業生や大学院生が講師となって、WSを行い、会期中には作家の作品と共に参加者の成果品も展示した。 当館を動物園や水の世界に設定して、オリジナルのイキモノや水を表現した事業、和紙の素材に注目して、その素材に楽しくふれる機会をつくる事業、共同制作の楽しみや大切さを伝えるものなど、毎回テーマを変えることによって、多種多様な造形体験の場を多くの市民に提供した。</p> <p>H24 「人がいっぱい」 参加講師 5人 H25 「ぞうけい！ たのしい！ はしもと動物園をつくろう」 8人 H26 「ぞうけい！ たのしい！ はしもとウォーターランド」 5人 H27 「ぞうけい！ たのしい！ 感じる、和紙の手ざわり」 3人 H28 「ぞうけい！ たのしい！ おやっ！ 子コミュニケーション」 4人 H29 「ぞうけい！ たのしい！ ミラくるっワンダー」 4人</p>
実施形態	共催 (主催:東京造形大学)	
実施内容	H25 ~ 29	<p>「東京造形大学社会連携事業 宇宙デザインワークショップ」 JAXAと協力して、WSを実施。参加者はJAXA相模原キャンパスの施設見学と研究者からのレクチャーを受講後、WSを実施。シルクスクリン技法を学ぶTシャツデザイン制作や遠赤外線装置を活用した惑星ランタン作り、衛星模型の制作を実施。成果品は東京造形大学、市民・大学交流センター、桜美林大学に巡回展示。桜美林大学の展示(H25年度~H26年度)は宇宙と音楽をテーマにしたコンサートの開催にあわせた関連企画として実施することで、共通する地域資源を活用した2つの大学のコラボレーション企画へと発展した。</p> <p>H25~H27 「本格!!宇宙Tシャツワークショップ」 WS参加者 32人 H28 「宇宙！惑星ランタンワークショップ」 10人 H29 「この夏、宇宙へ行ってきました！」 6人</p>
実施形態	企画制作(企画制作:東京造形小林ゼミ学生 主催:造形「さがみ風っ子展」実行委員会)	
実施内容	H27 ~ 28	<p>「東京造形大学社会連携事業 キッズゲルニカ みんなでピースをつなげよう」 市内・全小・中学校の生徒の作品を展示する造形「さがみ風っ子展」に大学生や来場者が主体的に関わることを目的としたプログラム。同大学の学生が中心となり、当館で中学校の美術部と準備を行い、当日には大勢の来場者が参加した大型作品を作り上げた。</p> <p>H27 参加学生29人 H28 78人</p>
実施形態	共催 (主催:多摩美術大学)	
実施内容	H25	<p>「多摩美術大学学生有志 ひかりのたからばこ ひみつのアトラボを探検しよう！」 同大学の学生有志による光をテーマとしたプログラム。当館の空間を利用したインスタレーションが設けられ、子どもを対象としたスノードームを作るワークショップを小山児童クラブ、当館にて実施。その後の多摩美術大学PBL科目へと発展した。 参加学生 18人</p>

6	大学・大学生との連携	
実施形態	共催 (主催:多摩美術大学)	
実施内容	H24 ~ 29	<p>「多摩美術大学PBL(Project Based Learning)科目」との連携          学生が地域社会・企業・行政等との共同プロジェクトに取り組む実践型・参加型の学習形態のカリキュラムを当館で実施。          H24年度はアートラボ主催の宇宙と芸術をテーマにした「ギャラクシーラブ展」のプログラムとしてARTSAT:衛星芸術プロジェクトの授業を行い、JAXAの関係者を交えた公開授業や衛星から着想を得た学生の作品提案を発表。          H26年度からは多摩美術大学主催の単独事業として、子どもや家族を対象としたWSを受講する学生が企画・実施。H28年度はあわせて市内のお祭りや小学校で実施した活動報告展を実施するなど、施設内外での活動、幅広い世代に向けた多岐に渡るプログラムを実施した。</p> <p>H24 「ARTSAT:芸術衛星」制作 &amp; パフォーマンス」 参加学生46人          H26 「宇宙から虫かごへ」 22人          H27 「ふしぎ王国タルバロ」 15人          H28 「はじめて体験」 13人          H29 「親子合体ロボ」 21人</p>
実施形態	共催 (主催:桜美林大学)	
実施内容	H24 ~ 29	<p>「桜美林大学芸術文化学群造形デザイン専修卒業研究選抜作品展「基点と起点」」卒業作品の展示のみならず、会期中には他領域の演劇公演、音楽、映画上映など行い、総合大学の特徴を活かした多彩なコンテンツを盛り込んだ取り組みを実施。スポーツに興味のある学生が多いことからH24年度にはサッカージャーナリストの宇都宮徹吉氏をゲストトークに招くなど、学生の卒業後の起点となる事業を行った。他にもまた、芸術文化学群としての発表の機会が少ないことから、H29年度には参加する学生が自主的に企画を行い、他領域との積極的な交流の場へと展開した。</p> <p>H24 「基点と起点」 49人          H25 「基点と起点」 46人          H26 「基点と起点」 50人          H27 「基点と起点」 44人          H28 「基点と起点」 42人          H29 「基点と起点」 50人</p>

6	大学・大学生との連携	
実施形態	共催 (主催:桜美林大学)	
実施内容	H25 ~ 27	<p>「桜美林大学『銀河鉄道の夜』イメージ画受賞作品展」          学生と市民が一緒になって作り上げる群読音楽劇「銀河鉄道の夜」の付帯企画として「銀河鉄道の夜」のポスター原画を募る事業を実施。その巡回展を桜美林大学、市民・大学交流センター、橋本図書館、当館で実施。H27年にはPR事業として、「銀河鉄道の夜をめぐる～鑑賞と工作を楽しもう～」を橋本図書館の主催により、朗読、演劇公演、工作のプログラムを駅前商業施設内広場にて実施。</p>
実施形態	主催 (共催:桜美林大学、橋本図書館)	
実施内容	H28 ~ 29	<p>「複合連携事業 桜美林大学×アートラボはしもと×橋本図書館」          駅前商業施設内広場において、演劇公演と工作プログラムを合わせたイベントを実施。当館が主催し、橋本図書館と桜美林大学が共催。企画を桜美林大学パフォーマンス・アート・インスティテュートが行い、制作・演出を学生が手掛けた。H29年度より杜のホールはしもと(相模原市民文化財団)も連携として加わり、領域の異なる文化施設がお互いの特色を活かした連携事業として実施。</p> <p>H28 「妖怪たちの夏祭り」 参加学生18人          H29 「真夏の忍者修行～おひめさまを救出せよ！～の巻」 24人</p>
実施形態	共催 (主催:泥沼コミュニティ)	
実施内容	H26 ~ 28	<p>「女子美術大学 泥沼プロジェクト」          女子美術大学の助手などによるグループが橋本地区を探索しながら様々な地域課題を抽出して、戯曲家の岸井大輔氏などのゲストを招き、昔ながらの地域扶助組織「講」に注目したり、境川の源流から河口までの56kmを踏破するなど多岐に渡るプロジェクトを2年がかりで実施。その集大成となる泥沼プロジェクト活動報告展「ホーム/アンド/アウェイ」をH28年度に当館で実施。</p> <p>(3年間延べ) 参加学生 9人 参加作家 19人</p>
実施形態	共催 (主催:女子美術大学)	
実施内容	H29	<p>「女子美術大学×アートラボはしもと連携プロジェクト」          女子美術大学主催事業として、当館と連携したプロジェクト「cross references:協働のためのケーススタディ」を実施。プロジェクトチームとして洋画研究室の教員・助手、女子美術大学美術館学芸員、卒業生の沼下桂子氏が企画。学内で募った学生や卒業生、教員がペアを組み、お互いの作品の展示方法について話し合いを重ねながら、展示を作り上げた。ゲストトークには「記憶のはがし方プロジェクト」の阿部大介氏(女子美術大学准教授)、鷹野健氏を招き、作品制作における協働することの有効性について語った。会期中には公民館からの依頼により、出品作家と女子美術大学美術館学芸員の企画による鑑賞プログラムも実施した。          H30年度に継続した事業「self-re-location」を実施。</p> <p>参加学生 29人</p>

6	大学・大学生との連携	
実施形態	主催	
実施内容	H24 ~ 29	<p>「博物館学芸員実習プログラム」        主なプログラムとして、WSの事例調査からはじまり、企画立案から実施までを実習生自らが行う。当館の特色ある部屋を活かしたWSや地域のサッカー選手を講師を招いたWS、児童クラブでの工作プログラムなどを実施。他には橋本七夕まつりでの工作プログラムや相模原市民ギャラリーでのギャリートークも実践するなど、館内に留まらない地域資源を活かした活動を実施。        H24年度～H29年度までに66人を受け入れ。基本協定を結ぶ4大学の他に、青山学院大学、東京工芸大学、法政大学、武蔵野美術大学、和光大学などの大学からも受け入れ。</p>
実施形態	共催（主催：美術学生団体PIN）	
実施内容	H24	<p>「関東圏美術大学デザイン 卒制week」        絵画・彫刻の五美大展に対して、デザイン系の合同卒業展がないことから学生グループ「PIN」が呼びかけにより、多摩美術大学、東京造形大学、女子美術大学、武蔵野美術大学、日本大学芸術学部のデザイン系の学生が集まり開催した合同の卒業制作展。会期中はデザイナー米谷ひろし氏を招いたトークイベントや子ども向けWS、出品者たちによるトークセッションなどを実施。         参加学生 50人</p>
実施形態	共催（主催：Parupa Ro）	
実施内容	H25	<p>「学生グループ共同プログラム SHARING WITH NATURE」        東京造形大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学の学生7人が企画。1年近く自主的に当館で学んできた学生グループの展覧会。自然のイメージを様々な視点から考え、会期中にゲスト作家を招いてのレクチャーや公開での共同制作を通して実験的にその領域について模索した。実施後は相武台中学校への出張プログラム「演劇共同制作WS」を企画。</p>
実施形態	共催（主催：第7期学生企画展OG）	
実施内容	H26	<p>「学生企画展7期生OG企画 おえかきのつづき展」        H25年度実施の学生企画展の参加学生が自主的に企画。自身の子ども頃から現在までの作品を会場で紹介しながら、デッサンやイラスト・漫画制作、CG制作などの体験講座を開講し、来館する子どもたちに将来の道筋づくりのきっかけを与えるプログラムを実施した。         参加学生 19人</p>
実施形態	共催（主催：はやおサークル）	
実施内容	H27	<p>「桜美林大学有志グループ サンタさんのコレクション展」        学生有志グループ「はやおサークル」と市内の子育て支援グループ「mama&amp;café つむぎ」との共同企画。学生が準備をした窓ガラスの壁画に、参加者の親子が作成した小さなステンドグラスをはめ込み完成させる。夜間には館内からライトアップすることで、通りを彩るイルミネーションとなった。         参加学生 15人</p>



## 事業目的

・H24年度～H29年度にWSを181回実施し、6,822人ももの市民が参加した。  
 ・H24年度～H29年度の大学・大学生の事業の開催日数は550日、21,797人の来場者が訪れた。  
 ・当館で制作することにより、地域の特徴を活かしたオリジナルのWSを市民に向けて提供できた。  
 ・H24年度～H29年度にアウトリーチ事業を62回実施した。市民に向けた事業回数として比べると数は多くないものの、大学に授業や講義に学芸員が出張する機会もあった。

## 事業目標

・「アートラボはしもと事業推進協議会」をH24年度～H29年度の間に46回開催し、事業実施方針の立案、年間事業計画の企画・立案、活動報告などを行った。  
 ・H24年度～H29年度に大学・大学生事業を57事業実施した。  
 ・専門的な大学機関や技術や感性を持つ大学生との連携をのぞむ、JAXAや図書館、学校などの様々な複合連携事業を実施した。  
 ・大学、大学生との連携事業を数多く実施したことで、当館のイメージが定着し、学校、市民団体、公共機関などからの美大生への参加依頼の問合せも多い。  
 ・基本協定を結ぶ大学(女子美術大学、桜美林大学、多摩美術大学、東京造形大学)とアートラボ事業推進協議会をH24年度～H29年度までに46回開催。美術館整備に対する提言や大学生の関わり方などの課題共有や情報交換の場として機能している。

## 結果・成果

## 事業目的

・H24年度～H29年度において1,004人ももの大学生が事業に参加した。  
 ・大学生が自主的に展览会やWSを実施する場合は、その実現化に向けて、当館スタッフが活動を支援した。  
 ・商店街や企業からのデザイン制作の依頼を受けて、事業に参加した大学生がデザインを行うなど、地域との連携にも繋がった。

	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計
開催日数 (日)	58	125	93	94	114	66	550
来場者数 (人)	3,001	3,463	4,818	3,905	3,206	3,404	21,797
参加学生数 (人)	182	98	143	150	177	254	1,004
博物館実習(人)	11	8	14	9	14	10	66
アウトリーチ回数 (回)	2	10	9	21	13	7	62
WS参加者数 (人)	284	528	1,299	1,718	2,036	957	6,822
WS開催数 (回)	10	23	54	36	29	29	181

WS開催数には立ち寄り式WS、ギャラリートークなどのイベントを含む。

6	大学・大学生との連携					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学、大学生側の負担が大きく、事業予算の確保が必要である。</li> <li>・学生のさらなる利用を考える場合、施設の開館時間、利用方法などについての検討が必要である。</li> <li>・当館のニーズにあわせて、初年度に比べると展覧会事業からWS事業に移行している。プログラムの内容、来場者の層を狭めていることもあり、展示機能については検討が必要である。</li> </ul>					
その他 特記事項	当館の再整備に係る検討に伴い、H31年度の基本協定の在り方については今後協議する。					
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の特徴を活かし、趣向を凝らした様々なWSを実施し、幅広い年代の市民が参加した。</li> <li>・各大学のHP、チラシ等での周知活動の成果もあり、大学主催のWSは定員がすぐに埋まるほど人気が高い。</li> <li>・児童クラブでのWS、造形「さがみ風っ子」への参加、商業施設での公演など、様々なアウトリーチ事業を行っている。</li> </ul>	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H29年度までに46回開催した「アートボはしもと事業推進協議会」において事業方針、年間事業計画を企画・立案するなど、各大学との連携により当館事業を推進した。</li> <li>・基本協定を結ぶ4大学等との連携事業により、当館が美大生と連携する拠点としてのイメージが定着しており、美大生の活動が地域資源としても注目されはじめています。</li> <li>・地元商店街、小中学校、福祉施設など、様々な主体と連携した事業を実施した。</li> </ul>	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WSや展覧会の企画・運営、作品の展示実施などにより、美大生に活動の場を提供し、指導を通じて多くの人材育成に取り組んだ。</li> </ul>	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館が活動拠点となり、複数の美術系大学・美大生と連携事業を実施したことは先進的な取組みである。</li> <li>・大学・大学生と連携する知識・経験は新施設における事業運営に十分反映されるものである。</li> </ul>	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	<p>実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も多様な大学、大学生との連携事業を推進していく。</li> <li>・当館と美大生との関わり方については、今後も各大学の方針について、協議を重ねながら、より良い関係づくりを行っていく。</li> <li>・一方で、当館において事業を実施する大学・大学生の負担は大きいことから、継続した運営や事業の拡大を図るためには、事業費や体制を充実させる必要がある。</li> </ul>					

7	地域との連携(商店街・商工会議所等)	
事業概要	<p><u>地元商店街、市商工会議所、地域の祭りの実行委員会等との連携により、祭りや野外イベント等をさらに盛り上げるため、美大生等とともに参加するアウトリーチ事業。</u></p> <p>・多くの美大生が生活する橋本地区の商店街では、“美大生のまち”として活性化させようとする動きがあり、当館がまちと美大生・作家を繋ぐ仲介役となり、美大生等には社会連携の場を、商店街には学生支援の場を提供すべく、様々な事業を実施。  ・上記のほか、全市的な大規模イベント、地域の夏祭り等に参加。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活躍の場を提供し、アートに関する人材を育成する。</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>地域の祭りや野外イベントなどに積極的に参加し、市民向けのWSを実施するなど、アウトリーチ事業を充実させる。</p> <p>商店街が中心となって行われる祭りや商工会議所などが主催する大型野外イベントなどに参加し、当館と連携することにより、アートの要素を加えて、これをより魅力的なものにする。</p> <p>美大生や作家の優れた技術・能力を地域や商店街などの活性化のために活用し、社会貢献の一助を成すとともに、学生自身の育成や支援につなげる。</p>	
実施形態	主催（*は共催）	
実施内容	橋本商店街	<p>H25年度「漫画広告」・・・当館の指導により美大生が商店街の中の飲食店9軒を取材。その店の料理を紹介する2頁の漫画(B2判)を描き、1頁目は店頭、2頁目は当館に掲示して店と当館を繋げた。</p> <p>H25年度 *「25×25」・・・当館が支援する学生グループの企画により、商店街の各店舗に40人の美大生が小作品を展示。また、商店街を紹介するイラストマップやオリジナルのワイン「はしもとワイン」のラベルを制作。</p> <p>H26年度「記念誌イラスト」・・・橋本商店街協同組合設立50周年の記念誌に、当館が紹介・指導する学生がイラストを制作。</p> <p>H27年度 アニメ「ミウルのまちへようこそ」・・・当館の紹介・指導により、映像専攻の美大生グループが商店街の人たちと一緒に地元のゆるキャラ・ミウルを主人公にしたクレイ・アニメを制作。（「緑区ショートフィルム・フェスティバル」に入賞。）</p> <p>H27年度「コミュットまっぴ」・・・橋本商店街の依頼を受け、当館が指導する学生グループが22人の店主のイラスト付き商店街マップを制作。</p> <p>H27・H28年度 *「まちゼミ」・・・橋本商店街が主催する各店舗でミニ講習を行う商店街全域イベント。これに2回参加し、「大人の塗り絵」などを実施。</p>

7	地域との連携(商店街・商工会議所等)	
実施形態	協力 (以下、主催は各実行委員会・組合等)	
実施内容	橋本七夕まつり実行委員会	<p>橋本商店街などによる実行委員会が主催する七夕祭りに当館で指導する学生たちが参加協力。</p> <p>H24年度 マンガのセリフ風のアート竹飾りなどを出展。</p> <p>H25年度 子どもたちと作った竹飾りを出展。</p> <p>H26年度 妖怪風のアート竹飾りを出展。</p> <p>H27年度 会場でWSを実施。美大生の出店(びだいまるしえ)8軒が参加。</p> <p>H28年度 会場でWSを実施。美大生の出店(びだいまるしえ)11軒が参加。</p> <p>H29年度 当館が仲介した美大生の出店(びだいまるしえ)5軒が参加。</p>
	さがみはらフェスタ実行委員会	<p>相模原商工会議所などによる実行委員会が主催する大型野外イベント「潤水都市さがみはらフェスタ」に参加協力。</p> <p>H24年度 「ぼくらは宇宙飛行士」。</p> <p>当館と学生・作家による混成チームで参加。子どもたちがダンボールで等身大の平面分身をつくり、宇宙服を装飾して展示。</p> <p>H26年度「野外プラネタリウム」。</p> <p>当館で指導する学生たちが会場に「宇宙クラブ」を開き、簡易な工作WSを実施。また、来場者が中に入って楽しめる通称・野外プラネタリウムを設置。</p> <p>H27年度「ストロー惑星」。</p> <p>当館で指導する学生たちが会場に「宇宙クラブ」を開き、簡易な工作WSを実施。また、数十万本の廃棄ストローで製作した通称・ストロー惑星を設置。</p> <p>H28年度「万華鏡ロケット」。</p> <p>当館で博物館実習を受けている学生たちが「宇宙クラブ」を開き、簡易な工作WSを実施。また、ロケットの内部が万華鏡になっている通称・万華鏡ロケットを出展。</p>
	上溝商店街(夏祭り実行委員会)	<p>上溝商店街などによる実行委員会が主催する「上溝夏祭り」に参加協力。</p> <p>H26年度～H28年度「フェイスペイント・サービス」。当館が仲介した地元の作家や美大生が来場者の顔に可愛くペイント。(当館は当日の参加者整理に協力。)</p> <p>H29年度以降は、実行委員会と作家たちが独自に連絡を取り合い実施。</p>
	相和会(和菓子組合)	<p>H27年度「和菓子の包装紙デザイン」。12軒の和菓子店による和菓子組合「相和会」の依頼により、当館が仲介・指導した美大生が相模原銘菓3種「相模原音頭」「相模の娘」「てるて物語」のラベルをデザインした。</p>

7	地域との連携(商店街・商工会議所等)										
結果・成果	<p>事業目的 ・当館の企画並びに指導のもと、美大生や作家たちが祭りや野外イベントの会場で様々な工作WSなどを実施した。これにより多くの市民が気軽に造形体験を楽しむことができた。</p>										
	<p>潤水都市さがみはらフェスタの例</p> <table border="1" data-bbox="347 477 1011 741"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>WS参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24年度「宇宙飛行士」</td> <td>100人</td> </tr> <tr> <td>H26年度「プラネタリウム」</td> <td>659人</td> </tr> <tr> <td>H27年度「ストロー惑星」</td> <td>1,562</td> </tr> <tr> <td>H28年度「万華鏡ロケット」</td> <td>1,125</td> </tr> </tbody> </table> <p>*「WS参加者数」は、会場内での当館のブース「宇宙クラブ」での工作WS参加者及び当館が制作したオブジェ(プラネタリウム等)への入場者数。</p>	名 称	WS参加者数	H24年度「宇宙飛行士」	100人	H26年度「プラネタリウム」	659人	H27年度「ストロー惑星」	1,562	H28年度「万華鏡ロケット」	1,125
	名 称	WS参加者数									
H24年度「宇宙飛行士」	100人										
H26年度「プラネタリウム」	659人										
H27年度「ストロー惑星」	1,562										
H28年度「万華鏡ロケット」	1,125										
<p>事業目的 ・橋本七夕祭りや上溝夏祭りは古くから続けられているが、近年では実行委員会内においてマンネリ化を懸念する意見も出ていた。そこで当館の企画・指導のもと、美大生などがこれに参加し、アート竹飾りを出展したり、イベント会場に巨大なオブジェを設置したりと、アートのエッセンスを加え、祭りの盛り上がり貢献した。また、「まちゼミ」に参加するなど、商店街の一員として徐々に認められるようになった。</p>											
<p>事業目的 ・橋本商店街では“美大生のまち”を意識し、学生たちに商店街のマップや記念誌のイラスト制作などを依頼した。当館は地域との仲介や学生への指導を行った。さらに商店街をPRするため、複数の飲食店の漫画広告を描いたり、商店街の人と一緒に緑区のゆるキャラ・ミウルをモチーフにしたアニメを作ったりと、積極的に活動する美大生も現れた。また、当館が支援する学生グループは40軒もの店舗に小作品を展示した。なお、商店街でも美大生に依頼をする際には対価を支払うなど支援体制を整えている。</p>											
課題	<p>・商店街や実行委員会からの参加や制作の依頼は多いが、美大生とは言え、初めて体験する者がほとんどである。そのため、当館のスタッフが丁寧な指導を行う必要がある。また、参加を希望する学生も多いわけではなく、人材の確保などが課題である。</p>										
その他 特記事項											

7	地域との連携(商店街・商工会議所等)						
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・アウトリーチ事業として、祭りや野外イベントに美大生たちと参加し、幅広い年代の市民に対して、その場で楽しめる工作WSを数多く実施した。このようなイベント会場では、参加しやすいよう、短時間でできる、ごく簡易な工作に限られるが、その都度、工夫を凝らしたWSを実施することができた。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・アートによるまちの活性化を念頭に置き、地域の七夕祭りや野外イベントに美大生と一緒に参加し、他の飾りなどとは違ったユニークな竹飾りやオブジェなどを出展するなど、イベントそのものにアートのエッセンスを加えることができた。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・商店街などからの依頼を受け、当館が指導する美大生たちがマップやイラストなどを作成した。中には自ら企画を持ち込んでくる積極的な美大生もいた。 ・商店街なども美大生の育成や支援を念頭において謝礼金を用意するなどの対応をしてくれ、関係づくりができた。	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度		(理由) 当館の事業目標の一つである、アートによるまちづくりを意識し、街の祭りやイベントに積極的に参加し、これを盛り上げるべく事業を行ってきた。 “美大生のまち”を提唱する橋本商店街を中心に、当館が仲介役となって商店街と美大生を繋げてきたことは先進的な取組みと言え、新施設における事業実施に向け、十分な知識・経験を得たと言える。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考 え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	アートを街の魅力づくりに、美大生の力を街の活性化に、という提言は地元商店街はもとより、広く市域全体で聞かれるところだが、これには相応の人員と予算が必要である。事業規模にあわせた柔軟な取組みが求められる。					

8	地域との連携(市民団体・自治会等)	
事業概要	<p><b>社会奉仕等を目的とした市民団体との連携による小学校での出張授業等、また、地域の自治会等の協働によるアートプログラムの企画・実施などを行うもの。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献や地域の活性化を目的とする各団体との連携。</li> <li>・活動の活性化のため、各団体が技術や能力を持つ美大生に期待するもの大きい。当館は美大生や作家とともに各団体の活動に協力し、出張授業やアートプログラムを実施する。</li> </ul>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活躍の場を提供し、アートに関する人材を育成する。</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>社会貢献を目的とした市民団体(ロータリークラブ)などとの連携により、市民が美術を体験する機会を館内にとどまらず広く各地で展開する。</p> <p>住民による扶助組織などに協力し、その活動をより活性化させ、地域の魅力づくりに貢献する。</p> <p>美大生や作家の技術・能力を市民団体や地域扶助組織の活動拡充のために活用し、社会貢献の一助を成すとともに、自身の育成や支援につなげる。</p>	
実施形態	主催 (相模原ロータリークラブとともに主催)	
実施内容	相模原ロータリークラブ	<p>「相模原ロータリークラブ」は歴史のある社会奉仕クラブ。 H24年度～H26年度は「子どもたちに光をあてる」をテーマとした活動を続けた。当館では3ヶ年にわたり、同クラブが経費負担・調整役、当館が企画・実施という役割分担で連携。延べ10校の小学校におけるアウトリーチ事業として、卒業生を対象としたWSなどを実施。あわせて、その成果発表や記念コンサート、WSなどを当館で実施した。</p> <p>(H24年度) 中央小学校・横山小学校・谷口小学校・緑台小学校の4校と「思い出アニメーション」や「未来下駄箱」などを制作。そのほか当館で記念コンサートなどを実施。</p> <p>(H25年度) 二本松小学校・共和小学校・桜台小学校の3校と「思い出アニメーション」や「未来バス停」などを制作。また、当館に同クラブの活動を紹介するコーナー展示を行った。</p> <p>(H26年度) 中野小学校・並木小学校・谷口台小学校の3校と「思い出アニメーション」や「未来記念樹」などを制作。また、同クラブの会員が講師となって子どもたちに指導するWSも行った。</p>
実施形態	協力 (主催:国際ソロプチミスト相模)	
実施内容	国際ソロプチミスト相模	<p>「国際ソロプチミスト相模」は女性による社会福祉団体。</p> <p>(H27年度) 造形「さがみ風っ子展」に当館が参加した際にその活動に理解を示し、資金提供を行った。当館ではこれを基に巨大なパズル画を来場者につくるWS「キッズ・ゲルニカ」を実施。 * H28年度は造形「さがみ風っ子展」全体に対して資金提供。</p>

8	地域との連携(市民団体・自治会等)	
実施形態	協力 (主催: はなかなぐみ)	
実施内容	NPO はなかなぐみ	<p>NPO「はなかなぐみ」は市内の生花店や音大生からなるグループ(現在は解散)。</p> <p>(H24年度) 当館の開館記念事業「はじめましてアートラボ」に自主参加。生花オブジェの展示やメンバーの音大生によるコンサート、生花パフォーマンスなどを披露して華を添えた。</p> <p>(H25年度) 「春の感謝祭」に自主参加。メンバーの音大生によるコンサートや生花パフォーマンスを実施した。</p>
実施形態	協力 (主催: はしもとパンダの会)	
実施内容	はしもと パンダの会	<p>「はしもとパンダの会」は子育て世代の母親でつくる会員数50人程度の育児サークル。年齢制限があり、毎年、卒会の幼児のためのイベントを行っている。</p> <p>(H26年度) 「パンダのファッションショー」。同会を卒会する幼児と保護者計56人を対象としたイベント。当館と母親たちが一緒に企画・準備し、幼児がパンダに扮するファッションショーを実施。</p>
実施形態	主催 (H26年度) 共催(H27年度 主催: 近隣マンション自治会)	
実施内容	近隣 マンション 住民	<p>当館に一番近い自治組織は道路を挟んで向かいにある2棟の高層マンション(計800世帯)の自治会である。そこに住む子どもたちを対象とした交通安全教室が行われる際には敷地を提供するなど、日ごろから協力体制にある。</p> <p>(H26年度) 「CG花火大会」。当館が指導する学生たちとマンションの子ども・住民とでアニメ風の映像で花火をつくり、その完成披露を夜間に当館の外壁に映し出して実施。多くのマンション住民が訪れた。</p> <p>(H27年度) 「サンタさんのコレクション」。当館が指導する学生とマンションの子ども・住民とで当館のエントランスをスタンドグラス風に装飾。</p>
結果・成果	<p><b>事業目的</b> ・相模原ロータリークラブとの連携で、3ヶ年にわたり、10校延べ959人の小学校の6年生等と学校の思い出をテーマとしたアニメーションや、自分の夢をテーマとしたWSなどを行った。また、国際ソロプチミスト相模の援助を基に造形「さがみ風っ子展」の会場で実施したWSや近隣マンションの住民と行ったWSでは小学生とその保護者、パンダの会では幼児と保護者を対象としたWSを行った。</p> <p><b>事業目標</b> ・当館の近くにあるマンションの子どもたちは日ごろから当館の「キッズアトリエ」の黒板に絵を描くなどして、閉館時間まで遊ぶことが多い。当館のWSにはマンション住民の参加比率が高く、また、「CG花火大会」の際にも82人も住民が制作に参加するなど、連携が築かれており、当館はまちの中に溶け込む存在となっていると言える。</p> <p><b>事業目標</b> ・H24年度～26年度にかけて行われた相模原ロータリークラブとの連携事業では、「子どもたちに光をあてる」ことをメインにしながら、学生たちの育成も意識したプログラムを構成した。当館では延べ100人を超える学生がこれに参加し、当館の指導を受けながら10校959人の生徒をリードし、アニメーションや工作を完成させた。また、マンション住民と一緒に制作した「CG花火大会」では、その企画制作・当日の制作指導なども学生たちが行った。</p>	



8	地域との連携(市民団体・自治会等)					
課題	・ロータリークラブやソロプチミストは良き理解者であり、事業経費の提供も受けていたが、団体の年次計画などが明確に決められており、いつでも協力を得られるわけではない。また、団体側の考え方や事業目的が当館と一致しない場合もある。NPOも同様である。したがって、各団体との連携においては、その活動の性質にあわせて、当館と共有できる部分を見出さなければならない不安定さがある。					
その他 特記事項						
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・相模原ロータリークラブや国際ソロプチミストなどから、経費負担や調整等の協力を得て、延べ10校の小学校に対する、アウトリーチにより、児童959人とのアニメーション制作や思い出の工作づくり、造形「さがみ風っ子展」での2ヶ年で延べ2,078人の来場者と巨大なパズル画づくりなど多様なWSを実施した。 ( 事業の対象は主に児童と保護者)	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・市民団体主催の事業では、児童を対象に事業を実施したほか、美大生が事業に協力するなど、多様な連携が図られた。 ・自治体との連携に関しては、近隣のマンション住民には当館の存在はよく知られており、保護者にも子どもたちが安全に遊べる場として認知されている。	大学 大学生	地域	小中高	異分野 まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・相模原ロータリークラブ主催事業では、子どもたちを対象としたWSを行う際に、企画検討や事業実施にあたって学生等を活用することを条件としており、美大生への活動機会の提供となったが、人材育成に繋がるほどの関りには至らなかった。	若手作 家	美大生 活動	人材育 成	
施設の 設置目的 の達成度		(理由) ・地域等との連携では、アートプログラムの企画段階から住民が関わり、当館スタッフとともに考え、作りあげていく手法に実験的に取組んだ。 ・新施設における事業実施に向け、一定の知識・経験を蓄積することができた。	先進的・ 実験的	知識・経 験の蓄 積		
今後の事業 実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	地域の各種団体の活動の性質にあわせた連携ができるよう、当館として、より多様な事業の企画、運営が出来る力をつけていく必要がある。				

9	<b>造形「さがみ風っ子展」との連携</b>	
事業概要	<p><b>市立小中学校全109校の児童・生徒が参加する日本最大規模の野外作品展である造形「さがみ風っ子展」に当館学芸員等が参画し、来場者向けのアートプログラムや作品鑑賞支援を実施。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員で構成される実行委員会の依頼により、毎年、当館の関わり方を協議し、教育現場のニーズにあった様々なプログラムを企画、実施。</li> <li>・美術教員を目指す大学生への実践機会の提供も兼ねている。</li> <li>・また、例年、実行委員会からの依頼により、当館の学芸員が合評会において講師を務めている。</li> </ul>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>淵野辺公園、女子美術大学美術館等におけるアウトリーチ事業として、幅広い世代の市民がアートに触れるための一助となる。</p> <p>造形「さがみ風っ子展」実行委員会との連携により、実施年度ごとに、ニーズにあったプログラムを企画、実施し、同展のさらなる活性化に寄与する。</p> <p>プログラムの実施にあたり、美術教員を目指す大学生に、実践機会を提供する。</p>	
実施形態	協力（主催：さがみ風っ子文化祭運営委員会）	
実施内容	H24 ・ H25	<p>&lt; 大学生の企画・実施による小学生向けWSの成果品の展示 &gt; 東京造形大学の学生が企画・実施した児童クラブでのWSにおいて、児童とともに制作した作品を屋内会場（女子美術大学美術館）にて展示。 H24年度の「くるくるスター」は、ポテトチップの筒の胴体部分を細長く切断、くるくると巻いて装飾を加えたものに電飾を仕込んで展示。 H25年度の「キラ ピカ クラゲ」は、ペットボトルをアルミホイル等の限られた材料で装飾してクラゲを作り、光との組み合わせを体験するWSで、60個の作品を展示。</p>
	H26	<p>&lt; 中学校美術部員による等身大人型の公開制作・展示 &gt; 11校の中学生美術部員168人が、展示会場において、プラスチックダンボールを用いた11体の等身大の人型を公開制作。当館はこのWSの指導にあたった。これらを、実行委員会の企画で生徒たちが制作したモニュメントの周辺に配置し、人の気配を感じさせ、繋がりを意識させる演出を施した。</p>
	H27 ・ H28	<p>&lt; 中学生・大学生・来場者による巨大絵画のパズル制作 &gt; ピカソの「ゲルニカ」と同サイズの巨大絵画を、約500個に分割した個々のピースに来場者がコラージュの技法で彩り、パズルの要領で組合せ、絵画を完成させる企画「キッズゲルニカ」を実施。ピースの準備制作には、制作担当4校の中学生美術部員延べ53人があたり、木材の洗い、塗装、やすりなどの作業を他校に引き継いでいく形で実施した。また、東京造形大学の学生が企画から、中学生との準備制作、当日の運営にまで携わった。風っ子展当日は、延べ781人の来場者の手により巨大絵画を完成させた。（以上、人数等はH27年度実績）</p>

9	<b>造形「さがみ風っ子展」との連携</b>					
	H29	<p>&lt; 児童・生徒作品の鑑賞ガイドブックの発行 &gt;  有志の教諭により、風っ子展における企画を検討する「アートプログラム勉強会」を実施(延べ20人が参加)。勉強会において、同展に展示される作品のテーマや担当教諭のねらいを記す鑑賞ガイドブックの作成が提案された。当館の学芸員が小・中学校計8校の教員に取材して、小冊子「風っ子アートナビ」1,500部を作成し、会場で配布した。</p>				
結果・成果	<b>事業目的</b> ・児童クラブでのWSの成果品の展示、来場者参加型のWS、鑑賞ガイドの作成など、アウトリーチによる多様なプログラムを企画、実施。特にH27年度の「キッズゲルニカ」においては延べ781人、H28年度は1,297人もの方が制作に関わり、アートに触れる一助となった。					
	<b>事業目的</b> ・実施年度ごとに、実行委員会のニーズにあったプログラムを企画、実施し、活性化に寄与することができた。					
	<b>事業目的</b> ・大学生には、児童クラブにおける工作WSの指導、「キッズゲルニカ」における企画・中学生の指導・当日の運営など、多岐に及ぶ活動の場を提供した。					
課題	現状においては、造形「さがみ風っ子展」の開催時期と、当館の他事業実施の時期が重なる。プログラム実施のためには、今後とも、大学生等の協力が必要不可欠である。					
その他 特記事項						
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・アウトリーチ事業に参加し、年毎に多様なプログラムを実施した。特に来場者参加型の制作WS、鑑賞ガイド配布においては、幅広い世代の来場者に働きかけた。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・小・中学校の教員からなる実行委員会との連携により、ニーズにあったプログラムを企画、実施した。キッズゲルニカ」等の事業においては大学生との連携により実施した。また、合評会において学芸員が講師を務めた。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・教員を目指す美大生等に対し、準備段階における小・中学生への指導、当日の運営など、多様な形で、活動の場を提供した。	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度	(理由) ・児童がゲルニカサイズの巨大画を描く「キッズゲルニカ」は全国でも散見されるが、これを組み合わせパズルとした事業は全国的に見ても先進的だと言える。 ・小・中学校との多様な連携のあり方について、新施設における運営に十分な知識・経験を蓄積することができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	実施する	小・中学校との連携を図る観点から重要な事業であり、引き続き、実行委員会等との協議により、ニーズにあった形で連携していく。				

10	小・中・高校との連携	
事業概要	<p><u>小学校・中学校との連携による出張授業、校外学習への協力、教員を対象とした研修等を実施。また、高校との連携により生徒がライブパフォーマンスショーに参加した。</u></p> <p>本事業評価シートにおいては、「9 造形「さがみ風っ子展」との連携」における実施内容は評価対象外とする。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>学校に出向いてWSなどを実施するアウトリーチ事業を含め、小学生・中学生・高校生がアートに触れる機会を提供する。</p> <p>地域団体や企業、作家、美大生などと連携して学校教育に協力する。</p> <p>小・中・高校における各事業の実施にあたり、美大生に活動の場を提供する。</p>	
1 ロータリークラブ主催事業における小学校との連携（H24年度～H26年度）		
実施形態	主催（相模原ロータリークラブとともに主催）	
実施内容	<p>・相模原ロータリークラブが3年間を目途に計画した「子どもたちに光をあてる事業」を協働で実施。同クラブが出資、主催。（H25、H26は当館とともに主催。）</p> <p>・同クラブが小学校との調整や財政支援を担当し、当館は対象小学校6年生全員の思い出づくりのWSを企画。</p> <p>・若手作家や学生らが各校を訪れて児童を指導し、当館において展示、WS等を行った。</p>	
	H24	<p>「はじめましてアートラボ」より</p> <p>・「思い出アニメーション」</p> <p>中央小学校・横山小学校・谷口小学校の3校の6年生、緑台小学校の5年生、合計349人の児童が参加。教室や理科室・図工室などを映像で撮影し、それを数百枚にプリント。これに児童が1人10枚程度自分たちのキャラクターを描き、それをパトンタッチ式につなぎ、パラパラ漫画風のアニメーションにする。BGMは自分たちで歌った校歌。作品は卒業式に合わせて生徒にDVDにして配布し、当館の開館記念事業「はじめましてアートラボ」でも上映。</p> <p>・「未来下駄箱」</p> <p>上記の3校の6年生を対象としたWS。自分の将来の夢を靴に託し（バレリーナやスポーツ選手など）、これを個々に描いて下駄箱にはめ込む。そのほか緑台小学校の5年生による「教室の神さま」（理科室や音楽室の守り神を紙製の立体作品にする）や青野原小学校の全校児童で制作した大型平面作品を展示した。</p>

10	<b>小・中・高校との連携</b>	
実施内容	H25	<p>「春の感謝祭」より          ・「思い出アニメーション」          上記と同じWSを二本松小学校・共和小学校・桜台小学校の6年生全員合計310人と実施。DVDにして児童に配布し、当館の「春の感謝祭」の時に上演した。</p> <p>・「未来バス」          上記3校の6年生を対象としたWS。実寸の木製バス停をつくり、それぞれ自分の夢をバスの行先(例:野球選手行き)として描いた。また、当館で展示する際には、あわせて、多摩美術大学の学生らがベニヤなどの木材を用いて実寸大の木製バスを制作した。</p>
	H26	<p>「夢へのイロハ 未来のススメ」より          ・「思い出アニメーション」          上記と同じWSを中野小学校・並木小学校・谷口台小学校の6年生全員合計300人と実施。DVDにして児童に配布し、当館の「夢へのイロハ 未来のススメ」の時に上映した。</p> <p>・「未来記念樹」          上記3校の6年生を対象としたWS。直径20cmほどの円盤に自分の夢(例:アイドル)をカラーージュで表現し、これをさらに大きな円盤の周りに何枚も取り付けた。この大きな円盤に脚をつけて風車状にし、モーター仕掛けでゆっくりと回した。</p>
2 アートラボ ライブショーへの参加 (H25年度～H29年度)		
実施形態	主催	
実施内容	当館において、様々なライブパフォーマンスを行うアーティストたちの公演と、関連展示、WSなどを行うプログラムへの、高校生の参加。	
	H25	<p>「アートラボはしもと レイトショー」          県立弥栄高校時代に「アートライブ」を発案・指導してきた教員が、当時のOB・OG (ARTLiVERS)と、現在の勤務先である県立相模田名高校芸術部の生徒を率いて実施。高校生は運営に参加した。</p>
	H26	<p>「ARTLiVERS&amp;fiveレイトショー」          H25年度に続き、県立相模田名高校芸術部の生徒が運営に参加。</p>
	H27	<p>「アートラボ・ライブショーvol.1」          県立相模田名高校のダンス部の生徒が出演。</p>
	H28	<p>「アートラボ・ライブショーvol.2」          H27年度に続き、県立相模田名高校のダンス部の生徒が出演。</p>
	H29	<p>「アートラボ・ライブショーvol.3」          県立相模田名高校の芸術部が制作したCG映像と同校ダンス部のパフォーマンスのコラボレーションによる公演。また、県立弥栄高校の生徒による作品展示など、機材提供、資料提供を含め、市内の4つの高校が事業に協力した。</p>

10	小・中・高校との連携	
3 小・中学校教育課程研究会への協力		
実施形態	協力	
実施内容	H28	本市の小・中学校教育課程研究会における「図画工作」の研究発表指定校となった当麻田小学校に協力。担当教員と当館が共同研究した成果として、作品鑑賞をテーマとしたプログラムを実施。市内在住の作家・上條陽子氏の抽象作品を題材とした。1日目は学校で作品鑑賞後に、その作品の印象を身体で表現。2日目は同じく学校においてペーパーワーク。3日目は当館に作家と児童を招いて交流を図り、踊る人をモデルとした作品制作を行った。同校の3年生65人(3日間で延べ195人)が参加。また、研究発表については担当教員と当館がともに行った。
4 特別支援学級の校外学習への協力		
実施形態	協力	
実施内容	H25	「スノードームをつくろう」 当館を訪れた作の口小学校の特別支援学級の児童を対象としたプログラム。多摩美術大学の学生が児童と一緒に小さなスノードームをつくった。
	H27	「しゃぼんでわくわく、にじいる動物園」 当館を訪れた横山小学校の特別支援学級の児童14人を対象としたプログラム。東京造形大学のプログラムをもとに当館スタッフが対応。絵の具を混ぜたしゃぼん玉で彩色を楽しんだ。 「しゃぼんでわくわく、マイバッグ」 当館を訪れた広田小学校特別支援学級の児童6人を対象としたプログラム。上記と同じく当館スタッフが対応した。絵の具を混ぜたシャボン玉で彩色を楽しみ、紙製バッグをつくった。なお、以上のプログラムは学校からの依頼に応えたものである。
5 小・中学校教員等向け研修への協力		
実施形態	協力	
実施内容		さがみ風っ子教師塾 ・教員志望者や新規採用教員を対象とした研修。当館スタッフの講義と実施中のWSの見学。7人が参加した。
	H28	市立中学校教育研究会 美術科研究部会への協力 ・中学校の美術教員を対象に、授業の参考にする素材提供を目的とした研修。美大生の発案による団扇の骨でカサゴの骨格標本を作るWSを実施。教員40人が参加。
		市立小学校教育研究会 図工部会への協力 ・小学校の図工の授業を担当する教員を対象に、授業の参考にする素材提供を目的とした研修。小麦粘土に食塩を混入することで電気を通す性質になる通電粘土を紹介。教員26人が参加。

10	小・中・高校との連携	
6 その他の連携		
実施形態	協力	
実施内容	H24	全国美術高校協議会総会の視察 美術専門コースを持つ高校の協議会による施設見学。全国の高校の美術教員80人が視察に訪れた。
	H25 ・ H26	インターン実習生(高校生)の受け入れ ・3校4人を受け入れ、夏休み期間中の5日間で実施。当館で開催中の来場者に、「アトラボに期待すること」をテーマに「突撃インタビュー」を行い、その結果を、来場者の写真とともにパネル展示した。(H25年度)
	H26 ～ H29	近隣小学校の校外学習への協力 ・近隣の小山小学校、橋本小学校の2年生の校外学習(まちたんけん)として、施設見学に協力。 ・担当教員と協議の上、地域にある施設として、展示作品の説明や児童によるスタッフへのインタビューなどを受けた。
	H26	相武台中学校「ふれあいWAI」への協力 同校の生徒会が企画、運営する行事「ふれあいWAI」への参加依頼を受け、同校へ出向いて演劇風のWSを実施。32人の生徒たちが役者・声優・舞台美術・衣装制作等を分業で行い、映像作品にまとめた。東京造形大学等の学生9人が制作指導に、桜美林大学出身の劇団員4人が演劇指導にあたった。
	H26	中学生職場体験 田名中学校からの依頼を受け2年生3人を受け入れ、子ども向けWSの企画立案や野外作品の点検調査などを体験した。
	実施形態	主催
実施内容	H24	高校生による人工衛星デザインコンテスト ・JAXAとの連携事業において、弥栄高校美術科専攻の生徒がダンボール紙で制作した人工衛星の作品を当館で展示し、来場者投票によるコンテストを実施した。
	H26	アニメーションづくりWS 「開講！ぼくらの未来授業」の一環として実施。県立相模田名高校の教員の指導のもと同校美術部員がアシスト。
結果・成果	事業目的 ・ロータリークラブとの連携による小学生の卒業記念制作、抽象作品を題材とした鑑賞・制作プログラム、中学校で行った演劇風WS、特別支援学級の児童向けプログラムなど、学校に出向いてのアプローチを含む多様なWSを実施。	
	事業目的 ・ロータリークラブとの連携により、大規模な事業を実施。 ・小・中学校の教育研究会の依頼による教員研修の実施。 ・各小・中・高校と連携した施設見学や職場体験等の受け入れ。 ・高校との連携による小学生向けWSの実施やライブショーへの参加など。	
	事業目的 ・ロータリークラブとの連携事業などにおいて、美大生が参加対象の小・中学校を訪れて生徒の指導にあたるなど、現場体験の機会を与えた。	

10	小・中・高校との連携					
課題	中学校は美術部、高校は県立弥栄高校美術科や県立相模田名高校芸術部等の生徒との関わりに限定されがちである。それら以外の一般の生徒に向けた美術の授業への関わりなど、より多様な連携の在り方を検討する必要がある。					
その他 特記事項						
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・学校を訪れるアウトリーチ授業を含め、小学生の卒業記念制作、中学生に向けた演劇風WS、特別支援学級の児童向けプログラムなど、多様なWSを実施した。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・各学校等と連携し、施設見学や職場体験の受け入れのほか、教員向け研修などを行った。 ・地域団体、作家等との連携により事業を実施した。 ・中学校、高校との連携の在り方については、さらに検討の余地がある。	大学・大学生	地域	小中高	異分野 まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・ロータリークラブ主催の事業等においては、美大生が児童・生徒に指導を行うなど、活動の場を提供した。	若手作家	美大生活動	人材育成	
施設の 設置目的 の達成度		(理由) ・高校との連携によるパフォーミングアーツの公開は全国的に見ても先進的であると言える。 ・小・中・高校の生徒のみならず、特別支援学級や教員との連携を含め、新施設における運営に必要な一定の知識・経験を蓄積することができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積		
今後の事業 実施の考え方	実施する	美術館運営においては、学校の児童・生徒を対象とした鑑賞教育や造形体験教育は重要な意味を持つ。そのためにも学校現場との連携事業は必須であり、今後とも、様々な関わり方をさらに検討して継続していく必要がある。				



11	JAXAとの連携
事業概要	<p><b>本市に所在するJAXAの協力を得て実施する事業。東京造形大学主催による、宇宙をテーマとしたデザインWS等を実施。</b></p> <p>・本市と文化事業等協力協定を結んでいるJAXA(独立行政法人宇宙航空研究開発機構)との連携によるプログラムである。本市中央区にJAXA相模原キャンパスが所在する。</p>
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</b></p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p>
【中項目】 本事業の 目的	<p>JAXA相模原キャンパスでの講義を取り入れ、幅広い世代の参加者が体験できるプログラムとする。</p> <p>JAXA相模原キャンパスとの連携により、シティセールスに寄与する。</p>
実施形態	<p>主催(H24年度) 共催(H25年度～H29年度 主催:東京造形大学)</p>
実施内容	<p>・H24年度は当館主催による1か月以上にわたる長期プログラムとして実施。 ・H25年度～H29年度は、東京造形大学の主催により、同大学の社会連携事業「東京造形大学×JAXA連携ワークショップ」として、教員の指導のもと実施。数日間にわたるプログラム構成は、制作の前段として受講者がJAXA相模原キャンパスを訪れ、研究員等から宇宙に関連したテーマについてレクチャーを受けた後に、当館において作品の制作に取り組むものである。</p> <p>H24 「ギャラクシーラブ - 科学もアートも宇宙がスキ - 」 ・JAXAのほか、美術大学、県立高校、児童クラブ、市民サークルなどの協力を得て実施。 ・宇宙をテーマにした作品の展示、大学の教員や学生を講師として制作するWS、高校生による人工衛星デザインコンテスト、市民サークルによる月の観測会、多摩美術大学の衛星芸術プロジェクトの公開授業、JAXA研究員を迎えてのトークショー等を実施。</p> <p>H25～H27 「本格!!宇宙デザインTシャツワークショップ」 ・スクリーンプリントによるTシャツのデザイン制作WS。 ・対象は美術系分野を専攻する学生や卒業生、教員など。 ・成果品は、東京造形大学CSギャラリー、桜美林大学ブルヌスホール、当館等で巡回展示した。</p> <p>H28 「宇宙！惑星ランタンワークショップ」 ・惑星をイメージしたランタン(糸巻きランプシェード)を制作。 ・宇宙と美術に興味がある中学生以上の方を対象とし、中学生・大学生・社会人を含む幅広い年齢層が参加。 ・風船をベースに様々な素材を使って大陸をカラーージュで制作した後、探査機で使用するサーモグラフィー(遠赤外線装置)を用いて、熱伝導の異なる素材による「熱の流れ」や「光の温度」などを鑑賞。 ・成果品と観測映像は、東京造形大学CSギャラリー、当館等で巡回展示した。</p> <p>H29 「この夏、宇宙に行ってきました！」 ・オリジナルの惑星探査機模型を制作し、宇宙ジオラマを背景にカメラで撮影。 ・H28年度同様、中学生以上を対象とし、中学生・大学生・社会人が参加。 ・完成した「オリジナル惑星探査機の宇宙写真」は、東京造形大学CSギャラリー、市立博物館、当館等で巡回展示した。</p>

11	JAXAとの連携																													
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H25年度～H29年度は東京造形大学主催の社会連携事業として、宇宙とアートを結び付けた多様なWSを実施した。JAXA研究員から受けた講義をもとに制作に臨む内容の濃いWSであり、H29年度実施のアンケートでは満足度5点中4.0と高い評価を得た。</li> <li>・中学生、大学生、社会人と幅広い世代の参加があった。</li> <li>・一方、周知不足から、参加者数が定員に満たない年があった。</li> <li>・当館以外の巡回展示によるアウトリーチを実施した。</li> </ul>																													
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JAXAとの連携事業には、市外の参加者もあり、シティセールスに繋がった。</li> <li>・当館がJAXAと東京造形大学の仲介役となり、5年間に亘り事業を実施するなど、十分な連携ができた。</li> </ul> <table border="1" data-bbox="352 703 1358 860"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日数</td> <td>34</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td></td> <td>11</td> <td>13</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>6</td> <td>48</td> </tr> </tbody> </table>								H24	H25	H26	H27	H28	H29	計	開催日数	34	3	2	2	2	2	45	参加者数		11	13	8	10	6
	H24	H25	H26	H27	H28	H29	計																							
開催日数	34	3	2	2	2	2	45																							
参加者数		11	13	8	10	6	48																							
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JAXAに協力を要請するにあたり、相模原キャンパス事業や研究者等とのスケジュール調整が困難な場合が多い。</li> <li>・中学生以上を対象としたWSにおいては、より効果的な広報手段を検討する必要がある。</li> </ul>																													
その他 特記事項																														
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年多様で内容の濃いWSを実施した。</li> <li>・幅広い世代の参加者があり、アンケートによる評価も高かったが、さらに多くの参加者を得るため、より効果的な広報が必要であった。</li> <li>・H25年度以降のWSにおける成果品は当館と他館で巡回展示を実施し、アウトリーチを図った。</li> </ul>	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ																									
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館がJAXAと大学との仲介役となり、5年間にわたり事業を実施するとともに、H24年度には高校生対象のプログラムを実施するなど、JAXAを通じてシティセールスに寄与した。</li> </ul>	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化																								
施設の 設置目的 の達成度	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇宙に関連した様々なアートプログラムの実施はJAXAが所在する本市ならではの先進的な取り組みであり、新施設における事業運営に向け、一定の知識・経験を蓄積することができた。</li> </ul>	先進的・実験的	知識・経験の蓄積																											
今後の事業 実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	本市と文化事業等協力協定を結んでいるJAXAとの連携事業の実施は好ましい。今後の実施においては、JAXAの協力を得ること、また、引き続き内容の濃いプログラムを実施するため、必要な体制を整えることが必要である。																												

12	高齢者向け事業	
事業概要	高齢者福祉施設等との連携による制作WSの実施や、当館における他事業への高齢者の招待などを行う。	
【大項目】 関連する 事業目標	アートによるWSなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する	
	様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する  地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する	
【中項目】 本事業の 目的	高齢者層を対象としたアウトリーチ事業によるWS等を行う。	
	高齢者福祉施設等との連携による主催事業のほか、他機関の主催事業にも協力する。	
	高齢者福祉に対して、意欲・興味のある学生の参加を促す。	
実施形態	主催	
実施内容	H28	「アート×福祉 実践ワークショップ」 ・公募により参加した大学生が、「高齢者に対して、アートに何ができるのか」を探り、企画・実践する、全8日間、3か月にわたるプログラム。 ・同趣旨の事業の開催経験豊富なNPO法人職員による取組み紹介や、大学の教員、介護福祉士等による講義等を通じて、高齢者に対する理解に努めた。 ・施設の事前見学の後、ワークショップの企画、施設職員に対するプレゼンテーション等を経て、工作WSを実施。 ・当日は、参加学生が、歌や芝居などを通じて高齢者とコミュニケーションを図った後に、手すきの和紙に秋らしい素材を使って絵の具でスタンプを押して「秋色ランチマット」を制作。学生たちが高齢者たちと直接関わる時間はわずかだが、「このWSを思い出して欲しい」との学生たちの思いから、日常生活で使用できるものを制作した。
実施形態	主催	
実施内容	H27 ～ H29	「みんなの畑プロジェクト」への高齢者の招待 ・野菜の栽培とアートプログラムを組み合わせたWSに、高齢者を招待。 ・H29年度には、3回のWSに「さがみりハビリテーション病院」の高齢者を招き、アートプログラムに取り組みながら、子育て中の家族との交流を楽しんだ。
実施形態	協力（主催：麻溝地区社会福祉協議会）	
実施内容	H27 ・ H28	「麻溝地区 長寿フェスティバル」への参加 ・麻溝地区社会福祉協議会の主催により、まちづくりセンター等を会場に開催される「長寿フェスティバル」に参加。女子美術大学の似顔絵サークルのメンバー等を主催者に紹介し、実施に際しては高齢者への対応を当館が指導。当日は、3人の学生が、来場した高齢者に似顔絵をプレゼントするプログラムを実施した。

12	高齡者向け事業
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アート×福祉」は、入居・通所あわせて28人の高齡者が参加。当館に不足している高齡者向けアートプログラムのあり方を模索する事業として、有効な試みであった。</li> <li>・H29年度の「みんなの畑プロジェクト」では、高齡者12～15人(ほか介護スタッフ6人)を招き、アートプログラムを通して若い世代の4家族との交流を楽しんだ。</li> <li>・「長寿フェスティバル」には、H27年度は32人、H28年度には30人の高齡者の参加があり、好評であった。</li> <li>・一方で、全体として、高齡者向けの事業の実施件数が不足していた。</li> </ul>
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO法人や高齡者福祉施設などと連携し、様々な職種の方からレクチャーを受けて、事業を実施した。</li> </ul>
	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「アート×福祉」には公募による7人(8日間のプログラムで延べ40人)の大学生が参加。準備段階で8人の専門家から講義を受ける充実したプログラムは、貴重な経験になったようで、参加学生から満足の声が多く聞かれた。「長寿フェスティバル」においても参加学生は高齡者と関われる貴重な機会として捉えていた。</li> </ul>
課題	高齡者を対象としたアートプログラムの件数において、十分な実施は出来ていない。
その他 特記事項	

12		高齢者向け事業					
【中・小項目】 事業目的 評価結果	×	(理由) ・高齢者福祉施設や地域の施設における事業は実施したが、事業の実施件数、アウトリーチの件数等においては不十分であった。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・福祉施設、農業者、地域の施設等との連携により、高齢者を、大学生や、地域の若い世代の家族等と結びつける事業を実施できた。 ・長寿フェスティバルのような地域に根ざした事業は潜在的な需要はあると考えられるが、多数の実施には至らず、まちの活性化には繋がらなかった。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果		(理由) ・「アート×福祉」は、事前に8人の専門家から講義を受ける充実したプログラムであり、インタビューにおける学生の満足度も高く、貴重な経験になったと考えられる。 ・長寿フェスティバルにおいても大学生に活動の機会を提供できたが、「アート×福祉」のように学生を育てるプログラムではなく、高齢者向け事業全般としては、人材育成に寄与するまでには至らなかった。	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の設置目的の達成度		(理由) ・「アート×福祉」の学生にとってのプログラムは、福祉関係者から他にない充実ぶりであるとの評価を受けた先進的事業であった。 ・一方で、高齢者向け事業全般では、実施件数が少なく、新施設での事業運営に向けた知識・経験の蓄積は十分ではなかった。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	高齢者を対象としたアートプログラムについては、要望も多いが専門的な知識などが求められ、容易な事業ではないため、今後の実施を通じて、知識・経験をさらに蓄積する必要がある。あわせて、認知症の予防・改善等を目的としたアートセラピーなどの本格的な事業の実施については是非を検討する。					

13	ホームタウンチーム等との連携	
事業概要	<p><u>本市に拠点を置くスポーツチームと連携し、アートを介して選手と触れあえるWSの実施、チーム広報への協力などを行う。</u></p> <p>・幅広い世代の市民が関心をもつスポーツを通じて、ホームタウンチームと市民を繋ぐための様々な事業を行う。 「相模原市ホームタウンチーム」シティセールスやスポーツ振興によるまちづくりのため、本市に活動の拠点を置き、全国での活躍が期待できるスポーツ団体を認定したもの。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>試合会場等でのアウトリーチを含め、幅広い世代に向けたプログラムを実施する。</p> <p>アートプログラムを通じて、ホームタウンチームと市民を繋ぐ役割を担う。</p> <p>博物館実習生等の美大生の活躍の場を提供する。</p>	
実施形態	協力 (チームからの依頼)	
実施内容	H26	ラグビーチームPRポスターの制作 ・ラグビーチーム「三菱重工相模原ダイナボアーズ」の依頼により、チームをPRするポスターのデザインを制作。多摩美術大学の学生の協力により、提供。
実施形態	主催	
実施内容	H26	サッカー選手を講師としたWS ・相模原ロータリークラブと当館の主催による「開講！ぼくらの未来授業」として、様々な分野で活躍する専門家が講師を務めるWSを実施。その一つとして、サッカーチーム「SC相模原」の選手を講師とした「手作りボールで挑戦！はじめてのシュート」では、PPバンドでボールを作り、講師にシュートのテクニックを教わった。
実施形態	協力 (チームからの依頼)	
実施内容	H27	サッカーチーム応援グッズ制作の立ち寄り式WS ・サッカーチーム「SC相模原」によるファンへの感謝企画として、ホームゲームにあわせて実施されたイベント「緑区民デー」に参加。 ・スタジアム周辺に設置したテントで応援グッズを制作する、アウトリーチによる立ち寄り式WS。 ・事前に用意した団扇に、目、鼻、口などの形のスタンプを組合せ、好きな選手の顔に見立てた「フェイスうちわ」を制作。
実施形態	主催	
実施内容	H27	博物館実習生の企画による地元サッカーチームとの連携 ・当館で行う博物館実習の課題として、9人の大学生が2グループに分かれてWSを企画・実施。アート以外の分野との連携を体験することをテーマとした。 ・女子サッカーチーム「ノジマステラ神奈川相模原」の選手を講師とした「星のかけら 散りばめて ～サッカーコートを作って遊ぼう」は、本来、長方形であるコートを自由に変形し、新たなルールを作り出し、固定概念を捨てることをねらいとした。 ・サッカーチーム「SC相模原」の選手を講師とした「動物たちのサッカー大会」は、指定された動物の面(帽子型)を制作して被って、その動物に与えられた能力を駆使しながらミニサッカーを楽しむ。他者との違い、各自の個性を認識することをねらいとした。

13	ホームタウンチーム等との連携					
結果・成果	<p>事業目的</p> <p>・応援グッズづくりは、約2時間で、スタジアムに応援に来た幅広い世代のファン52人が参加。</p> <p>・WS「星のかけらを散りばめて」には11人、「動物たちのサッカー大会」には7人の小学生が参加。「はじめてのシュート」には当初の定員10組を超える親子15組30人が参加した。</p>					
	<p>事業目的</p> <p>・ホームタウンチームの3チームと連携。WSでは選手と触れ合える機会の提供など、チームと市民を繋ぐことに寄与した。</p>					
	<p>事業目的</p> <p>・博物館実習生がWSを企画し、当日の運営を行った。</p> <p>・ポスターデザインも、チーム事務局の広報との打合せやチームへの取材の段階から、学生自らが関わった。</p>					
課題	ポスター等の広報物の制作については、引き受ける大学生にも相当な時間と労力がかかるため、マッチングの難しさがある。					
その他 特記事項						
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・当館を会場として、選手を講師としたWSを実施したほか、スタジアムに応援に来た幅広い世代のファンを対象に、アウトリーチによるWSも行った。 ・選手を講師としたWSについては、屋外で実施するアウトリーチ事業として検討する余地があった。	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・市として応援するホームタウンチームとの連携により、市民とチームを繋ぐことに寄与したが、まちの活性化にまでは至らなかった。	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	(理由) ・WSやポスター制作に大学生が企画段階から主体的に関わったが、十分な人材育成にまでは至らなかった。	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度	(理由) ・スポーツ選手を講師とした実験的なWSを行った。選手と触れ合えるWS、チームの広報への関わりなど、新施設における事業運営に対して、一定の知識・経験を蓄積することができた。	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	ホームタウンチームの支援は本市として重要である。今後は、アウトリーチを中心に、さらに魅力あるアートプログラム、有効な連携の検討により、チームと市民を繋ぐことを目指す。				

14	<b>みんなの畑プロジェクト</b>	
事業概要	<p><b>当館敷地内の小さな畑での野菜の栽培とアートプログラムを組み合わせ、その実施を通じて、地域のコミュニティづくりを試みる数ヶ月にわたるWS。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者を含めた幅広い世代が親しみやすい野菜の栽培と、アートプログラムを組み合わせた事業。</li> <li>・長期的なWSなどを通じて、参加者同士の継続的な関係づくりを試みる。</li> </ul>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</b></p> <p>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>子ども、大人、高齢者を含む幅広い世代に、新たなアートプログラムの実践を試みる。</p> <p>市内在住の農業者との連携により、数ヶ月にわたる長期的なWSなどを通じて、世代間交流を含めた、参加者同士の継続的な関係づくり、コミュニティづくりを試みる。</p>	
実施形態	主催	
実施内容	H27 ～ H29	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の敷地内に小さな畑を作り、市内在住の農業者の指導のもと、参加者全員で土作り、野菜の栽培、収穫を行い、あわせて、畑の看板作りや紙漉きなどのアート体験をするプログラム。</li> </ul> <p>&lt; 以下は、H28年度のプログラム &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月の土作り・種まき・苗植え付けから、7月の収穫まで、全8回の活動を実施。</li> <li>・全8回のプログラムを通じて、トマト、なす、ピーマン、かぶ、小松菜等の野菜を栽培。講師である農業者の畑も見学した。また、各回においてアートプログラムを実施。最終日には参加者全員でピザ生地を作り、収穫した野菜をトッピングして、収穫祭とした。</li> <li>・高齢者支援センターとの連携により、ゲストとして訪れた高齢者たちと野菜を収穫し、その野菜を使ったWSを一緒に行うなど、参加家族と高齢者の交流を図った。</li> </ul> <p>&lt; 以下は、アートプログラムの例 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「トウモロコシ紙漉き」 トウモロコシの茎を原材料とした紙漉き。花びらや葉を並べてオリジナルの和紙を制作。(協力:女子美術大学 版画研究室)(H27年度)</li> <li>・「畑の土で絵を描こう」 肥料を入れる前の畑の土を細かくすりつぶして、にかわに溶き、伝統的な日本画の手法を用いて絵を描いた。(講師:女子美術大学 学生)(H27年度)</li> <li>・「紙粘土ジャガイモ・スタンプオーナメント」 収穫したてのジャガイモを観察し、紙粘土で本物そっくりの作品を制作。また、その葉をスタンプにして、クリスマスのオーナメントを制作。(H27年度)</li> <li>・「野菜で顔!名札づくり」 野菜を組み合わせ人物像を描いた画家アルチンボルトの絵画を鑑賞。野菜を模した小さなパーツから自分の顔を作り、名札にした。(H28年度)</li> </ul>



14	みんなの畑プロジェクト					
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H28年度は、4家族15人(大人8人、子ども7人)、9日間のプログラムで延べ125人の市民が参加。</li> <li>・野菜の栽培、アートプログラムなどを実践した。</li> <li>・また、数回のプログラムにおいては高齢者福祉施設の高齢者を招き、参加家族とともに制作等に取り組み、幅広い世代の市民の参加となった。</li> </ul> <p>事業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・8回のWS当日には、4家族が顔を合わせ、和気あいあいとプログラムに取り組んだ。</li> <li>・畑での作業や屋外でのWSは通りがかりの人から見られるため、当館のPRにもなった。</li> <li>・一方で、WSのない日に、当館の畑に出向いて野菜の世話をする参加者は限られており、結果としてコミュニティづくりにまでは至らなかった。</li> </ul>					
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の畑の面積が狭く、畑での作業に関わる人数が限られるため、定員数が少ない。</li> <li>・畑の手入れ等を介したコミュニティづくりに至らなかった。</li> <li>・参加者からは(アートプログラム以上に)もっと野菜の栽培に関わりたいとの意見もあった。</li> </ul>					
その他 特記事項						
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て世代の家族に加え、福祉施設の高齢者を招いて行うなど、様々なプログラムを実施した。</li> <li>・市広報紙などの効果的な周知により、H29年度には定員の3倍以上もの参加申し込みがあり、盛況であった。</li> <li>・一方で、当館敷地内の畑の面積では事業の定員に限界があるため、より広い農地を借り、大人数が関わるアウトリーチ事業として実施することを検討すべきであった。</li> </ul>	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	×
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元農業者から野菜栽培の指導、畑の見学等において協力を得た。</li> <li>・アートプログラムには、美大教員や美大生の協力を得た。</li> <li>・WSには参加家族が和気あいあいとプログラムに取り組んでいたが、畑の手入れを介したコミュニティづくりにまでは至らなかった。</li> </ul>	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
施設の 設置目的 の達成度	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館の敷地内に畑を作って、野菜の栽培を介したコミュニティづくりを図った実験的な取組みを通じて、関連する様々なアートプログラムについて、新施設における事業実施に向け、一定の知識・経験が蓄積できた。</li> </ul>	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	今後の実施を見送る	当館の畑の面積が狭く、定員が限られており、事業の効率は良くない。また、必ずしも野菜の栽培と関連づけたアートプログラムが求められてはいないとの感触を得た。高齢者の参加、コミュニティづくりに重点をおくなら、市民農園のような栽培を主眼とした取り組みが適切と考える。				

15	市関係機関等との連携	
事業概要	<p><u>図書館、公民館、相模原市民文化財団などとの連携により、紙芝居制作WS、商業施設における演劇公演、地域住民対象の芸術鑑賞プログラム等を実施。</u></p> <p>・設置目的の異なる施設や関係団体などと連携し、相乗効果により、各機関のより活発な事業展開を目指すものである。</p>	
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</b></p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>	
【中項目】 本事業の 目的	<p>アウトリーチを交え、商業施設を訪れた人や地域住民などを対象に、幅広い世代に向けた事業を行う。</p> <p>図書館、公民館、相模原市民文化財団などの市関係機関との連携により、まちの活性化に寄与する。</p> <p>演劇を専攻する大学生、地域で活躍するアーティスト、紙芝居作家などに活動の場を提供する。</p>	
実施形態	主催（市立図書館とともに主催）	
実施内容	H26 ～	<p>市立図書館との連携 「つくっちゃおう！かみしばい」</p> <p>・市立図書館が「子どもの読書推進のための方策」の一つとした掲げる「ボランティアとの協働及び活動支援」の一環として、全国レベルの手作り紙芝居コンクールで何度も受賞歴をもつ本多ちか子氏を講師として、自分で考えた物語を紙芝居として作りあげる、小中学生を対象としたプログラムを実施。</p> <p>・制作WSは4日間にわたり、物語づくり、描画、実演（話し方）練習をし、翌年度4月に市立図書館で実施される「キッズフェスタ」において実演発表。</p>
実施形態	主催	
実施内容	H27 ～	<p>桜美林大学・橋本図書館・相模原市民文化財団との複合連携</p> <p>・橋本駅前の商業ビル内の屋内広場を借用して、演劇公演、読み聞かせ、立ち寄り式工作WSなどを行うアウトリーチ事業。</p> <p>・同ビルに所在する橋本図書館及び杜のホールはしもと（相模原市民文化財団が施設管理を行う）、桜美林大学のパフォーミングアーツ・インスティテュートとの複合連携事業。</p> <p>&lt; 以下は各年のプログラムの主な内容 &gt;</p> <p>・H27年度「銀河鉄道の夜をめぐる」 桜美林大学の学生による演劇公演、俳優による朗読、当館によるモザイクによるしおり作りのWS。</p> <p>・H28年度「妖怪たちの夏祭り」 演劇公演、図書館スタッフによるお話し会、お面・太鼓・かざぐるま作りのWS。</p> <p>・H29年度「真夏の忍者修行」 演劇公演、巻物作りのWS、組紐体験。</p>

15	市関係機関等との連携	
実施形態	共催（主催：相模原市民文化財団）	
実施内容	H24 ・ H28	<p>相模原市民文化財団との連携 「かんじる学校あそびじゅつ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同事業は、相模原市民文化財団の主催により、芸術に触れ、表現することを通して、子どもたちの自由な感性を養うことを目的として、様々な会場で実施しているもの。当館は共催として携わった。</li> <li>・H24年度「自分を描こう 友だちを描こう」 ダンボールの上に子どもが横になり、その輪郭を描く。これを切り取り、色紙や布などで彩る。講師は多摩美術大学教授。</li> <li>・H28年度「まいにちのなかのダンスをはっけん」 運動が不得手な子どもでも楽しめるよう、日常的な動きや仕草をダンスに見立てる2日間にわたるWS。友だちや家族の面白い癖や動きをダンスにして発表。日常生活の動作を再現するため、当館2階のモデルルームを使用した。講師はコンテンポラリーダンサー。</li> </ul>
実施形態	共催（主催：清新公民館）	
実施内容	H27 ・ H28	<p>公民館との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清新公民館主催事業への協力依頼により、「芸術鑑賞」を目的としたプログラムを実施。</li> <li>・H27年度「相模原アートウォーキング」 開催中の「SUPER OPEN STUDIO 2015」の参加スタジオを訪問。また、学生の案内により多摩美術大学キャンパス内の建築物を見学するとともに紅葉を楽しんだ。</li> <li>・H28年度「あなたが創る清新の街！」 清新地区に所在するスタジオの作家を講師とした2日間にわたるWS。初日は参加者全員で地区を散策し、「街にあるもの・あったらいいもの」を考え、2日目はそれをもとに紙粘土などで大きな清新地区のジオラマを制作。作品は清新公民館まつりの際に展示。</li> </ul>
結果・成果	<p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居事業は、各年定員15人に対し、参加者はH26年度は15人、H27年度・H28年度は12人、H29年度は15人では、と参加者数が安定。リピーター参加も多い(3日間の延べ人数の4年間の合計は158人)。</li> <li>・桜美林大学等との複合連携によるアウトリーチ事業は、駅前の商業ビル内で実施した効果があり、WSには、H27年度は111人、H28年度には287人、H29年度には206人もの参加があった。(演劇公演の鑑賞者を含めた総数は、3年間で1,329人。)</li> <li>・「かんじる学校」には、H24年度には40人、H28年度には44人の小学生が参加。</li> <li>・清新公民館との連携事業には、H27年度に12人、H28年度に25人の地域の人々が参加した。</li> </ul> <p>事業目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紙芝居については、市立図書館のイベントでの実演を行うことで、当館を知ってもらう機会となった。</li> <li>・商業施設でのプログラムでは、普段、橋本図書館、杜のホールに足を運ばない人へのPRと場ともなり、まちの活性化に寄与した。</li> <li>・公民館との連携では、芸術鑑賞事業の実施に協力した。</li> </ul> <p>事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・桜美林大学の演劇専修の学生には、屋内広場での公演は貴重な経験となった。</li> <li>・公民館WSでは、地域所在のスタジオのアーティストが地域住民と触れ合う機会ともなった。</li> </ul>	
課題	演劇公演等の事業については、桜美林大学の演劇専攻の学生たちの協力に因るところが大きい。同大学の組織の改編に伴い、連携関係を維持できるかが課題である。	

15	市関係機関等との連携					
その他 特記事項	<p>*「つくっちゃおう！かみしばい」について、H30年度には講師の選んだ一部作品をカラーコピーし、当館に備えて、来館者が楽しめるようにした。</p> <p>*複合連携事業について、H30年度には商業ビルの屋内広場のほか、橋本図書館、杜のホールはしもとの3箇所を巡回するWSを行い、各施設に親しんでもらう試みとした。</p>					
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館、商業ビル、公民館等でのアウトリーチ事業を実施した。</li> <li>・幅広い年代を対象に、演劇公演、工作WS等、多様な事業を行った。</li> </ul>	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市関係機関等として、図書館、相模原市民文化財団、清新公民館等と連携を図った。商業ビルでの演劇公演等事業については桜美林大学を含む、四者との複合連携による取組みであり、まちの活性化に寄与した。</li> </ul>	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇公演等公演には桜美林大学の学生が全面的に関わり、大きな活動機会の提供となった。</li> <li>・公民館事業には美大生や地元のスタジオで制作する作家の協力により実施された。</li> </ul>	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当館、桜美林大学、橋本図書館、相模原市民文化財団による四者連携の取組みは、賑わいづくりの一助として、全国的にも例が少なく、先進的な取組みであると言える。</li> <li>・新施設においても、類似の事例において生かせる知識と経験を得た。</li> </ul>	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	実施する	H30年度に橋本図書館、杜のホールはしもと等を巡回するWSを行ったように、連携に関わる個々の主体が、それぞれ何ができるのかアイデアを出し合って検討することで、より良い事業を実施していく。				

16	アートラボ ライブショー
事業概要	<p><u>プロから現役高校生までによる、演劇、演奏、ダンス、映像など様々なパフォーマンスを、当館において一堂に公開する事業。</u></p> <p>・美術の専門コースを持つ県立弥栄高校では、20年ほど以前より音楽・演劇・映像・ダンス・ファッションなどで構成された総合舞台芸術「ARTLiVE」を行っており、卒業後に美術大学・音楽大学に進む生徒も多い。</p> <p>・本事業は「ARTLiVE」の経験者である同校の卒業生（現在はプロを含む社会人、大学生等）を中心に、新たに現役の高校生なども交えて、再構成し、演劇、演奏、ダンスなど様々なパフォーマンスを一堂に集めて公開するもの。併せて、舞台衣装の展示や、メディアアート・ファッションショーなどのWSも実施。</p> <p>・H24年度は他事業の関連プログラムとして実施したが、H25年度～H29年度は独立した事業として実施。（H24年度～H26年度には「アートラボ レイトショー」の名称で実施。）</p>
【大項目】 関連する 事業目標	<p><b>アートによるワークショップなどを通じて幅広い世代の市民が美術を体験する場を施設内にとどまらず市内の各地に展開する</b></p> <p>様々な主体との協働や異分野との連携により、アートによるまちづくり活動を推進する</p> <p>地域の若手アーティストを支援するとともに美大生に活動の場を提供し、アートに関わる人材を育成する</p>
【中項目】 本事業の 目的	<p>映像や身体表現、音楽などを含めた多様なアートを市民に提供する。</p> <p>学校、大学生を繋ぐことによって、地域資源を活用した展開を試みる。</p> <p>各出演者への活動機会の提供と、ジャンルを超えた様々なアーティストが参加・交流することによるで、新たなネットワークの形成に繋げる。</p>
実施形態	主催
実施内容	<p>H25 <b>「アートラボ・レイトショー」</b> SUPER OPEN STUDIOの関連プログラムとして実施。弥栄高校「ARTLiVE」の卒業生グループ・five、桜美林大学出身のダンサー宮崎あかね氏、「第6期学生企画展（H24年度）」に参加した多摩美術大学出身のズンマチャング、SUPER OPEN STUDIOに参加している作家の久村卓氏の4組による一夜限りの公演を実施。当日の音響や照明、会場誘導などはそれぞれの出演者が各自担当して行った。</p> <p>H25 <b>「アートラボはしもとレイトショー “RJP” The First Part 前編「ReACTION#1」</b> 「ARTLiVE」の発案・指導をしてきた米山肇氏（元・弥栄高校、現・相模田名高校教員）と卒業生が再結集して、一夜限りの公演を実施。運営協力として相模田名高校の芸術部の生徒が参加した。公演した作品は2014アジアデジタルアート大賞展に入選。</p> <p>H26 <b>「ARTLiVERS &amp; fiveレイトショー」</b> 「ARTLiVE」の卒業生で構成されるfiveとARTLiVERSによる公演を実施。会期中には、書家の阿河紫萌氏とファッションデザイナー仁平麻美氏によるWS「書でオリジナルグッズをつくろう」や関連展示として参加学生による「アトライバーズ展」を実施。H25年度に続き相模田名高校芸術部の生徒が運営に協力した。</p>

16	アートラボ ライブショー																																															
実施内容	H27	<p>「アートラボ・ライブショーvol.1」 ARTLiVERSによる公演、桜美林大学の有志劇団「しかくさんかく。」による演劇、注目を集める若手作家・中山晃子氏による映像パフォーマンスなどを実施。中山晃子氏による公開制作やWS、ARTLiVERSによるファッションショーの要素を取入れた子ども向け工作WSなど、会期中には市民も参加できる事業を実施した。</p>																																														
	H28	<p>「アートラボ・ライブショーvol.2 ～情熱の公演者たち～」 ARTLiVERSのほか、当館2階のモデルルームで撮影した東京造形大学映画専攻の三浦組による映画作品、書家の新藤ブキチを中心とした作家グループによるパフォーマンス「平面プロレス」を実施。関連する作品展示も行った。</p>																																														
	H29	<p>「アートラボ・ライブショーvol.3 What's ARTLiVE」 「ARTLiVE」の活動にスポットに当てた事業。約20年に及ぶ活動の歴史を振り返り、これまでに指導してきた教員たちによるインタビューや当時の衣装を展示。現在活動をしている高校生の作品を展示をするなど、約20年に及ぶ集大成を発表した。会期中には卒業生と高校生が企画した映像を用いたWS「夢の中へようこそ！～映像を使って遊んでみよう～」を実施した。ARTLiVERSの公演には相模田名高校ダンス部が参加。機材や資料提供を含めると市内4校の高校が事業に協力した。</p>																																														
結果・成果	<p>事業目的 ・H24年度～H29年度までに2,500人が来場し、身体表現から映画作品など、多彩な表現を市民に提供する機会となった。 ・関連WSも映像やファッションショーなどの多様なプログラムを実施した。 ・WS参加者には出演者の関係者が多く、より幅広い世代にむけた効果的な周知方法が必要であった。</p>																																															
	<p>事業目的 ・音大生、服飾専門学校生など、様々な大学の学生が参加した。 ・事業に参加した美大生はその後に、商店街との連携として行っている「びだいまるしえ」に参加するなど他事業にも積極的に参加した。 ・高校生の作品展示やダンス公演、機材提供や周知の協力などの複数の高校と連携した。</p>																																															
	<p>事業目的 ・多岐にわたり、作家や美大生、高校生の発表の場を提供した。 ・様々な技能を持つ学生が多く参加したものの、当館で活かせるプログラムが少なく、継続した関わりを持つことが難しかった。(H25年度事業に参加したグループ「ズンマチャング」はH27年度「ご縁の描きかた」、H28年度の「びだいまるしえ」に参加するなど、当館事業に継続的に関わった例もあるが、少なかった。)</p>																																															
<table border="1" data-bbox="352 1693 1267 2007"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催日数 (日)</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>来場者数 (人)</td> <td>363</td> <td>560</td> <td>542</td> <td>412</td> <td>623</td> <td>2,500</td> </tr> <tr> <td>参加学生数 (人)</td> <td>56</td> <td>40</td> <td>41</td> <td>26</td> <td>36</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>参加作家数 (人)</td> <td>6</td> <td>2</td> <td></td> <td>1</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>WS開催数 (回)</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table> <p>H25年度には2度開催。H27年度以降は関連作品展示を実施。 WS開催数にはWSのほか、演劇公演、映画上映などのイベントを含む。</p>								H25	H26	H27	H28	H29	合計	開催日数 (日)	3	3	8	7	8	29	来場者数 (人)	363	560	542	412	623	2,500	参加学生数 (人)	56	40	41	26	36	199	参加作家数 (人)	6	2		1	2	11	WS開催数 (回)	4	2	6	3	3	18
	H25	H26	H27	H28	H29	合計																																										
開催日数 (日)	3	3	8	7	8	29																																										
来場者数 (人)	363	560	542	412	623	2,500																																										
参加学生数 (人)	56	40	41	26	36	199																																										
参加作家数 (人)	6	2		1	2	11																																										
WS開催数 (回)	4	2	6	3	3	18																																										

16	アートラボ ライブショー					
課題	<p>・当館では専門の設備、機材を取り揃えておらず、高い専門性をもったプログラムを実施するには難しい。</p> <p>また、専門スタッフも当館には所属していないため、準備に多くの時間を要する。</p> <p>・当館においては、パフォーミングアーツの出演者、スタッフ等とのネットワークが十分でないため、新たな活動の場を提供していくことが難しく、事業の継続が困難であった。</p>					
その他 特記事項						
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <p>・演劇、演奏、映像、ダンス、ファッションなど、様々なパフォーマンスを公開するとともに、関連WSを実施した。</p> <p>・公演には一定数の来場者が訪れたが、公演者である高校生や若手アーティストの関係者が多く、一般市民への周知、集客が弱かった。</p>	多様なWS等	幅広い年代	周知	アウトリーチ	
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <p>・社会人、大学生、高校生など、多様なアーティストと連携した事業であった。</p> <p>・弥栄高校の卒業生で、地域で活動を続けるアーティストたちを一堂に紹介する事業であったが、まちの活性化までには至らなかった。</p>	大学・大学生	地域	小中高	異分野	まちの活性化
【中・小項目】 事業目的 評価結果	<p>(理由)</p> <p>・作家や美大生の発表の機会となった。</p> <p>・様々な技能を持つ学生が参加したものの、次に繋がる活動機会を提供できず、人材育成にまでは至らなかった。</p>	若手作家	美大生活動	人材育成		
施設の 設置目的 の達成度	<p>(理由)</p> <p>・専門の設備が機材がない当館で公演を実施したことは実験的な試みであったが、多くの関係者の協力により、充実した事業が展開できた。</p> <p>・新施設の事業運営に向けて、音楽や演劇など様々なパフォーミングアーツに対する知識や経験を蓄積することができた。</p>	先進的・実験的	知識・経験の蓄積			
今後の事業 実施の考え方	実施内容や手法等の改善を図り、実施する	公演に係る機材や設備、音響や照明等を担当する専門スタッフとのネットワーク作りなど、課題は多いが、優れたパフォーミングアーツを市民に提供する機会として、実施に向けた方法を探っていく。				